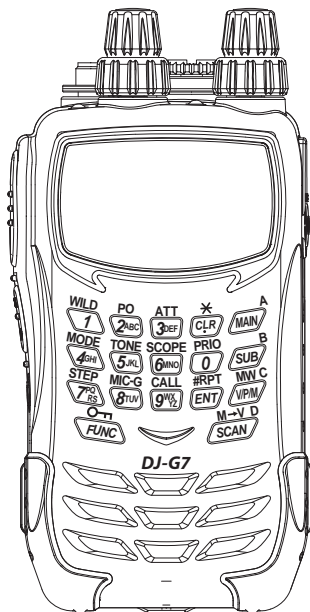
ALINCO

144/430/1200MHz TRIPLE BAND FM TRANSCEIVER

DJ-G7

取扱説明書

アルインコのトランシーバーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本機の性能を十分に発揮させるために、ご使用前にこの取扱説明書を最後までお読みください。アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は大切に保管してください。
また、補足シートや正誤表が入っている場合は、取扱説明書と合わせて保管してください。ご使用中の不明な点や不具合が生じたとき、お役に立ちます。

本機は国内専用モデルです。
この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。
This product is permitted for use only in Japan. An amateur radio license is required.

アルインコ株式会社

付属品の確認

DJ-G7には次の付属品が同梱されています。ご使用の前にご確認ください。

- □ DJ-G7本体
- □ トリプルバンドアンテナ（SMA）EA163
- □ 取扱説明書（本書）
- □ 保証書
- □ リチウムイオンバッテリーパック EBP-73
- □ ACアダプター EDC-112
- □ 充電スタンド EDC-173
- □ 乾電池ケース EDH-35
- □ ベルトクリップ
- □ ハンドストラップ

お買い上げの機器のバージョンによって付属品の種類が異なることがあります。標準付属品の仕様・保証内容については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

目次

1. 安全上のご注意

1-1 安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前にお読みください。
この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表　示	表示の意味
⚠ 危 険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警 告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注 意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

表　示	表示の意味
⚠	△記号は、注意（危険・警告含む）を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容が描かれています。
⃠	○記号は、行為の禁止であることを告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。
●	●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は AC アダプターをコンセントから抜いていただく強制内容）が描かれています。

本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因にて通信等の機会を失ったために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 警告

■使用環境・条件

自動車等の運転中に使用しないでください。交通事故の原因となります。
運転者が使用するときは車を安全な場所に止めてからご使用ください。携帯型無線機を運転者が走行中に手に持って使用すると道路交通法違反で罰せられます。

電子機器(特に医療機器)の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。

内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺、病院内では絶対に使用しないでください(電源も入れないでください)。
運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたしたり、医療機器が故障・誤動作する原因となります。

この製品を使用できるのは、日本国内のみです。海外では無線機の持ち込みや使用を禁止・制限している国や地域があります。

この製品を人命救助等の目的で使用して、万一、故障・誤動作等が原因で人命が失われることがあっても、製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

この製品どうし、または他の無線機とともに至近距離で複数台使用しないでください。お互いの影響により故障・誤動作・不具合の原因となります。

この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

指定以外のオプションや他社のアクセサリー製品を接続しないでください。故障の原因となります。

■トランシーバー本体の取扱いについて

イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因になることがあります。

このトランシーバーは調整済みです。分解･改造して使用しないでください。火災･感電・故障の原因となります。

布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。

水をかけたり、水が入ったりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。

水などでぬれやすい場所(風呂場など)では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

■チャージャーの取扱いについて

指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

チャージャーのACプラグのコードをタコ足配線しないでください。加熱・発火の原因となります。

ぬれた手でチャージャーのACアダプターに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

チャージャーのACアダプターを、ACコンセントに確実に差し込んでください。ACアダプターの刃に金具などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

チャージャーのACアダプターの刃に、ほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや加熱により火災・感電・故障の原因となります。

■安定化電源の使用について

指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

安定化電源の電源プラグと他の製品の電源プラグをタコ足配線しないでください。

ぬれた手で安定化電源の電源プラグに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

安定化電源の電源プラグをACコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

DCケーブルを加工したり、ヒューズホルダーを取り除いて使用することは、絶対にしないでください。火災・感電・故障の原因となります。

■シガーライターケーブルの使用について

弊社指定のシガーライターケーブルをお使いください。指定以外のものを使うと火災・感電・故障の原因となります。

ぬれた手でシガーライターケーブルに触れないでください。感電の原因となります。

■異常時の処置について

以下の場合は、すぐ本体の電源をOFFにして、電池を取り外し、チャージャーをご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または弊社サービス窓口にご連絡ください。お客様による修理は、危険ですから、絶対にお止めください。

■ 異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
■ 落としたり、ケースを破損したりしたとき
■ 内部に水や異物が入ったとき
■ ACアダプターのコードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

雷が鳴り出したら安全のため本体の電源をOFFにし、充電器をご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてご使用をお控えください。

■保守・点検

本体やアクセサリーは、分解しないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店または弊社サービス窓口にご依頼ください。

⚠ 注意

■使用環境・条件

テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。

湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

直射日光があたる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形･変色したり、火災の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■トランシーバー本体の取扱いについて

アンテナを誤って目にささないようにしてください。

外部イヤホン／マイク端子にはオプションのイヤホン／マイク以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源をOFFにし、電池をとりはずし、チャージャーをご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてください。

■チャージャーの取扱いについて

チャージャーのACアダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。必ずACアダプターを持って抜いてください。

チャージャーのACアダプターを熱器具に近づけないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■保守・点検

お手入れの際は､安全のため必ず本体の電源をOFFにして､電池をとりはずし､チャージャーをご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。

汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。ベンジン・アルコール・シンナー・洗剤などを使うと外装や文字が変質する恐れがあります。

■外部電源使用時の注意

車のシガーソケットから電源を取る場合には、オプションのシガーライターケーブル（EDC-36）をご使用ください。

外部電源ケーブルの抜き差しは、必ず本体の電源をOFFにしてからおこなってください。

24V系のバッテリー装着車に直接接続しないでください。故障の原因になります。

外部電源にスイッチング電源を使用した場合、スイッチングノイズの影響を受ける場合があります。

■防水性能について

本製品は、弊社の設計段階でJIS防浸保護等級7規格相当の試験に合格しており、防水キャップ類を正しく閉めていれば雨や雪の中でも防水カバーなしでお使いいただけます。ただし、ウォータースポーツなど常に激しい水しぶきがかかる環境や、恒常的に水没の危険がある環境での使用に耐える完全防水、海水がかかる環境での使用で発生する塩害については保証しておりません。対応するオプション以外のものや､DCジャックをお使いになるときは防水性がなくなりますのでご注意ください。また、すべての製品を出荷前に防水検査してその性能を保証するものではない｢相当品｣ですので、無用な水没や流水での洗浄などは絶対におやめください。ぬれたときは乾いた布で拭く、電池を抜いて内部もよく乾燥させるなどのメンテナンスを心がけていただくと、長く正常な状態でお使いになれます。なお、防水に使われているゴム素材などは、経年劣化のため変質し、防水性が失われる場合があります。弊社では、防水性についても部品と同じ1年を保証期間とさせていただきます。

■1200MHz帯について

- 1200MHz帯で、特に移動中に受信信号が安定せず、パサパサとノイズが入るようなフェージングが144MHz帯や430MHz帯より多く感じられますが、これは高い周波数である1200MHzの伝搬上の性質が原因であり、製品の異常ではありません。
- 本機は温度補正式水晶発信器TCXOの採用により周波数安定度は非常に高いのですが、このような回路を搭載しないタイプの無線機、特に1200MHzでQSO中に周波数がずれる現象が起こる可能性があります。これは相手局のQRHによるもので､本製品の異常ではありません。
- グロー蛍光灯などノイズの出やすい機器の近くで1200MHz帯の運用を行うと、ハム音のようなノイズが聞こえることがありますが異常ではありません。送信パワーを下げる、ノイズ源から離れるなどして運用してください。

■運用周波数とスプリアスについて

受信周波数が次のような関係になるとき、無変調信号を受信することがあります。これは本機の周波数構成によるもので故障ではありません。

メイン側周波数－51.65MHz＝サブ側周波数－（50.75×2）MHz
メイン側周波数－（51.65×2）MHz＝サブ側周波数＋50.75MHz
メイン側周波数－（51.65×2）MHz＝サブ側周波数－50.75MHz
（VHF帯－51.65MHz）×整数倍＝VHF帯周波数
（VHF帯－51.65MHz）×整数倍＝UHF帯周波数
（UHF帯－51.65MHz）×整数倍＝UHF帯周波数

受信周波数が送信周波数の3倍·またはその周辺のときは､抑圧を受けます。

同時受信時、サブバンドのVCO周波数がメインバンドのIF周波数に近いとメインバンドの表示周波数に関係なく受信抑圧を受けます（サブバンドの表示周波数900kHz）。

1-2 電波法上のご注意

電波法第59条は｢何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない｡｣とし、第109条で｢無線局の取扱中に係る無線通信の秘密を漏らし、又は窃用した者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する｡｣と罰則規定を設けています。さらに第109条の2で｢暗号（秘話）通信を受信した者が、その暗号通信の秘密を漏らし又は窃用する目的で、その内容を復元（秘話解除）した時は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する｡｣と定めていますので、放送以外の無線通信を傍受される場合は電波法違反とならないよう十分にご注意ください。
本製品はすべての級のアマチュア無線技士資格で無線局免許が申請できます。

1-3 電波を発射する前に

ハムバンド付近では、多くの業務無線局が運用されています。これらの無線局の近くでの電波発信には通信の混信などにお気をつけください。
アマチュア無線局が電波法令を尊守していても、思わぬ電波障害が起こることがあります。移動運用の際には、十分なご配慮をお願いいたします。

1-4 お願いとおことわり

- 本機は厳重な管理の下に生産及び出荷されますが、万一ご不審な点やお気付きの点がありましたら、できるだけ早くお買い上げいただいた販売店または弊社営業所へご連絡ください。
- 本機の広帯域受信機能では、本体の内部発振(スプリアス)によって、受信できない場合や雑音を発生する周波数もありますが、故障ではありません。
- この取扱説明書は予告なく変更することがあります。
- 乱丁・落丁などございましたら、無償で交換いたします。

2. 機能と特長

DJ-G7には主に次のような特長があります。

1. メインバンド、サブバンドが同時に運用可能なフルデュープレックス方式を採用。
2. 144MHz帯・430MHz帯の送受信に加え、1200MHz帯の送受信を可能にしたトリプルバンドハンディトランシーバー。
3. メインバンド、サブバンドそれぞれに独立したダイヤルを搭載。運用周波数や音量、スケルチレベルを個別に調整できます。
4. 大画面フルドットマトリクス液晶を採用。クリアな文字と分かりやすい表示で快適な運用をサポートします。
5. 広範囲の受信周波数0.5 ～ 1300MHzに対応し、FMラジオや航空無線通信などが受信できます。
6. 本体底部にバーアンテナを搭載。AMラジオがよりクリアに受信できます。
7. VOX機能を搭載。ハンズフリーでQSOできます。
8. 盗聴器発見機能を2モード搭載。盗聴器が使われていそうな場合、表示と警告音で知らせてくれます。
9. 本体同士で設定や各種データをコピーできるクローン機能を搭載。またパソコンと接続して設定やデータを編集することもできます。
10. CTCSS/DCS/逆トーンスケルチ機能を標準装備。
11. チャンネルスコープ機能を搭載、受信中のチャンネルとその周辺にある信号をモニターできます。
12. 空線信号キャンセラー機能を搭載。鉄道無線やMCA業務無線で使用されている通話の無い時に聞こえる「ピー」や「ギャラギャラ」という音にスケルチをかけることができます。
13. よく使うセットモードの機能にジャンプできるワイルドキーを搭載。

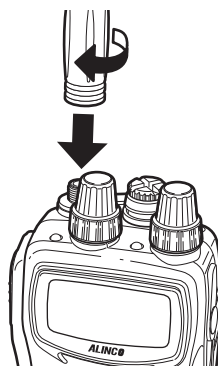
3. 付属品の取り付けかた

3

3-1 アンテナ

3-1-1 アンテナの取り付けかた

1 アンテナの根元を持って時計方向(右)に回します。

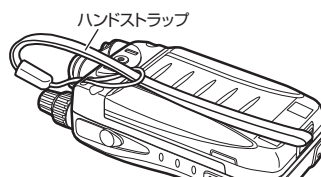
2 回転が止まったら、アンテナを確実に取り付けたことを確認します。

参 考

- 本機のアンテナは、折れにくくするため通常のものより柔軟な素材でできています。
- 外部アンテナの接続にも、このコネクターを使います。

3-1-2 アンテナの取り外しかた

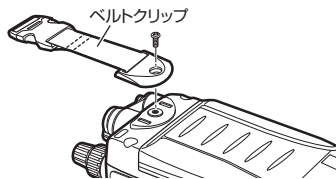
1 アンテナを反時計方向(左)に回します。

3-2 ハンドストラップ

1 ハンドストラップを本体背面の穴に図のように取り付けます。

3-3 ベルトクリップ

3-3-1 ベルトクリップの取り付けかた

1. ベルトクリップを本体背面の溝に合わせて固定し、ネジを時計方向(右)に回して取り付けます。
2. ベルトクリップを確実に取り付けたことを確認します。

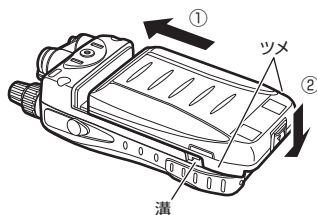
※使用しているとネジが緩むことがあります。ときどき点検してください。
※ベルトクリップは、最大約8cm幅のベルトでお使いいただけるように調整できます。

3-3-2 ベルトクリップの取り外しかた

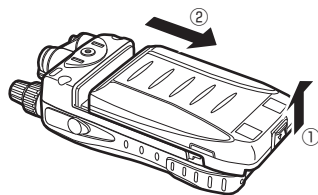
1. ネジを反時計方向(左)に回してベルトクリップを取り外します。

3-4 バッテリーパック

リチウムイオンバッテリーパック（EBP-73）の充電方法については「充電スタンドによる充電方法(☞P19)」と「DCジャックによるバッテリーパックの充電方法(☞P18)」をご参照ください。

3-4-1 バッテリーパックの取り付けかた

1. バッテリーパックのツメを本体の溝に合わせ、バッテリーパックを矢印の方向に押し込みます（①）。
2. ラッチを矢印の方向にスライドします（②）。

3-4-2 バッテリーパックの取り外しかた

1 バッテリーパック底部のラッチを矢印の方向にスライド(①)し、バッテリーパックを取り外します(②)。

注 意

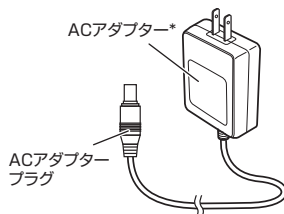
- バッテリーパックは出荷時には満充電されておりません。お買い上げ後に充電してからご使用ください。
- 充電は0℃～40℃の温度範囲内でおこなってください。
- バッテリーパックの改造、分解、火中・水中への投入は危険ですからしないでください。
- バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器の損傷や､バッテリーの発熱による火傷の原因となることがあります。
- 必要以上の長時間の充電(過充電)はバッテリーの性能を低下させますので避けてください。
- バッテリーパックの保存は、-10℃～45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーの漏液や、金属部分のサビの原因になりますので避けてください。
- バッテリーパックは消耗品です。所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がつきたものと思われます。新しいものにお取替えください。
- バッテリーパックはリサイクル資源です。再利用しますので、廃棄しないでバッテリーパック回収協力店へご持参ください。
- バッテリーパックは弊社製品専用です。対応の純正充電器または適合する無線機のみで充電できます｡市販や他社製品の充電器やアダプターなどから充電すると、故障や事故の原因となることがあります。
- 本体・バッテリーパックまたは充電器の電極の汚れを、ときどき乾いた綿棒などで取り除いてください。
- バッテリーパックをしばらく使用しないときは、バッテリーの劣化を防ぐため3ヵ月に一度充電してください。

3-5 DCジャックによるバッテリーパックの充電方法

本機は、付属のACアダプターやDC電源（DC 12V、1A以上：IEC/EN60950規格）を使用し、本体を通して、付属のリチウムイオンバッテリーパックを充電できます。放電状態から約5時間で充電できます。

1「バッテリーパック（☞P16）」を参照して、バッテリーパックを取り付けます。

2 ACアダプターのプラグを本機のDCジャックに接続し、ACアダプターをコンセントに差し込みます。

* 図のACアダプターは、同梱のACアダプターと形が異なる場合があります。

- 充電中の表示については「バッテリーレベルアイコン（☞P21）」をご参照ください。

注意

- 付属のACアダプターを接続した状態で、送信・受信をおこなわないでください。故障の原因になります。

参考

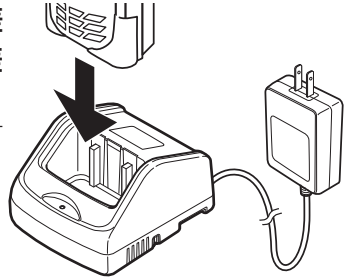
- オプションのアクセサリーに同梱されている注意書もよく読み、正しく安全にお使いください。
- 付属のACアダプターは、本機の充電にのみ使用できます。
- 電圧が不安定だと、充電器は正しく動作しません。

3-6 充電スタンドによる充電方法

付属の充電スタンドを使用すると放電状態から約3時間で充電できます。

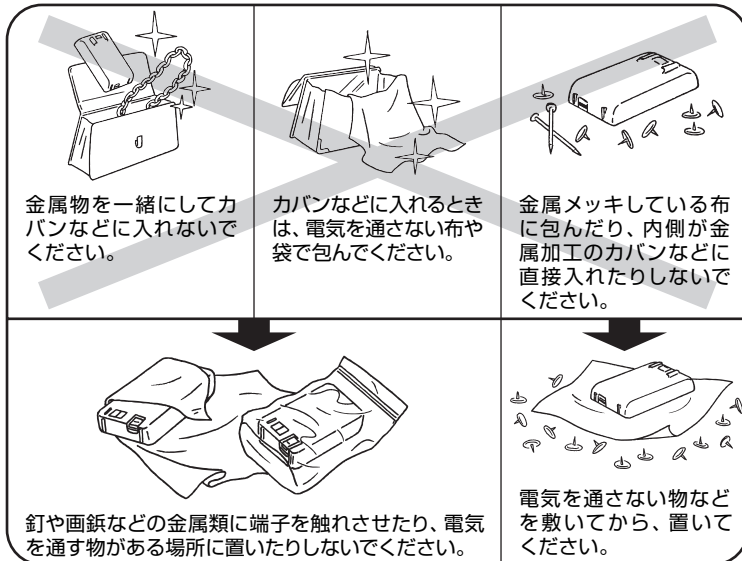
1 充電スタンドにACアダプターのプラグを接続します。

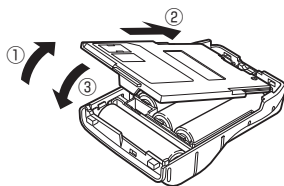
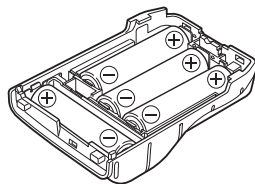
2 ACアダプターをコンセントに差し込み、本機を充電スタンドに差し込みます。

充電中は充電スタンドの赤ランプが点灯します。
充電が完了すると消灯します。

参考

- 無線機にバッテリーパックを装着した状態でうまく充電できない場合は、バッテリーパック単体で充電して異常がないかご確認ください。

3-7 バッテリーパックのショート防止

バッテリーパックを持ち運ぶときは、十分ご注意ください。ショートによって電流が急増し、発火の原因となることがあります。

3-8 乾電池ケース

1 ツメを持ち上げ(①)、カバーを取り外します。

2 単三形乾電池4本をケースにセットし、②→③の順にカバーを閉じます。確実に閉じていることを確認します。乾電池はアルカリ乾電池を使用してください。マンガン乾電池は使用できません。

参考

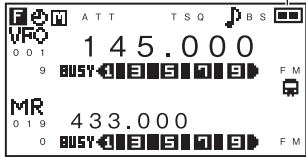
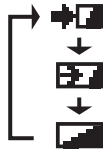
- 乾電池を使用するときは「電池の設定(☞P73)」をご参照ください。

注意

乾電池ケースについて

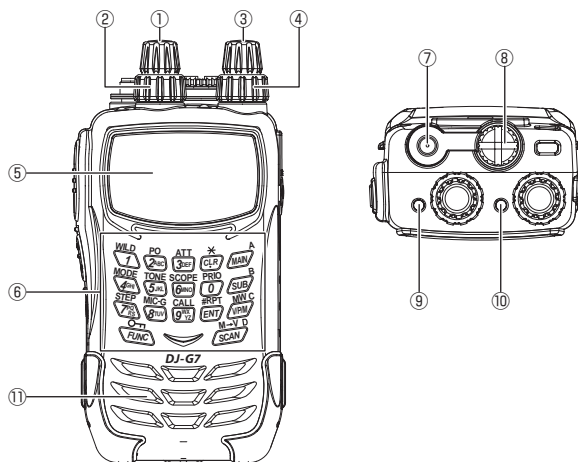
- この乾電池ケースは防水ではありません。
- ＋/－の向きを間違えないようにご注意ください。漏電・発火・爆発の原因となることがあります。
- セットする乾電池は、タイプ・メーカーが同じで、新しいものを使用してください。
- 電池を交換するときは、すべての電池を新しいものに換えてください。
- 充電式電池の使用は禁止されています。充電式電池の使用の結果生じた、身体・財産へのいかなる損害・傷害についても弊社は一切の責任を負いません。
- 乾電池と接する電極の汚れなどをときどき清潔な乾いた布や綿棒で掃除してください。
- 正しくないタイプの電池と交換すると、爆発の原因となることがあります。

3-9 バッテリーレベルアイコン

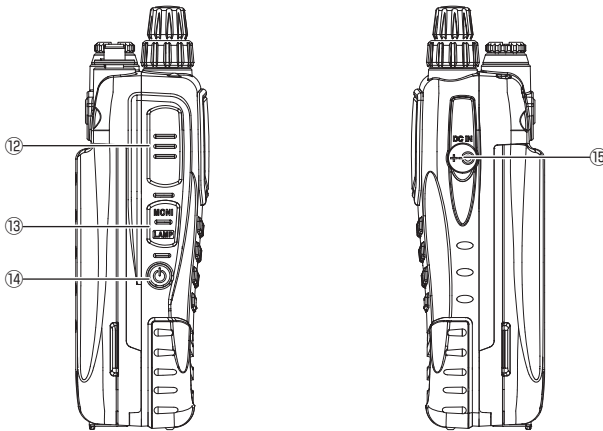
本機のディスプレイに表示されるバッテリーアイコンは、バッテリーの残量を示します。バッテリーアイコンの中身が空になっているときは、バッテリーパックを充電するか、新しい乾電池と交換してください。

• 本機の電源をOFFにしているときは、ディスプレイに「充電中」と表示されます。充電が完了すると「充電完了」と表示されます。
（充電スタンドを使用しての充電の場合は表示されません。）

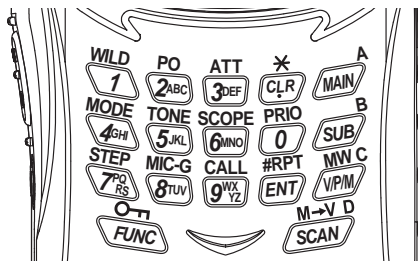
4. 各部の名称と操作

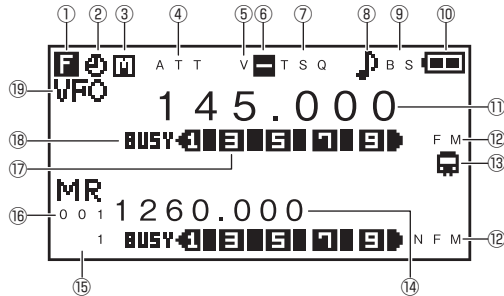
4-1 本体の名称と動作

4-1-1 上面部、前面部

No.	名　称	機　能
①	メインダイヤル（上）	ダイヤルを回してメインバンドの周波数、メモリーチャンネルの変更、各種設定をおこないます。F点灯中にダイヤルを押すとセットモードに入ります。
②	メインダイヤル（下）	ダイヤルを回してメインバンドの音量の変更、各種設定をおこないます。
③	サブダイヤル（上）	ダイヤルを回してサブバンドの周波数、メモリーチャンネルの変更、各種設定をおこないます。F点灯中にダイヤルを押すとセットモードに入ります。
④	サブダイヤル（下）	ダイヤルを回してサブバンドの音量の変更、各種設定をおこないます。
⑤	ディスプレイ	本機の状態を表示します。詳細はディスプレイの表示をご参照ください。
⑥	キーボード	周波数のダイレクト入力や、各種設定に使用します。
⑦	アンテナコネクター（SMA）	付属のアンテナをしっかり取り付けます。別売りのアンテナを使用するときは、動作周波数範囲内に調整されたアンテナをお選びください。

No.	名　称	機　能
⑧	イヤホン／ マイク端子	弊社オプションの外部イヤホン／マイクを接続します。使用しないときは、防水のためカバーをしっかり閉めておきます。
⑨	メイン TX/RX ランプ	メイン側のスケルチが開くと緑色に点灯します。送信中は赤色に点灯します。
⑩	サブ RX ランプ	サブ側のスケルチが開くと緑色に点灯します。
⑪	マイク	マイクから約 5cm 離して話してください。

4-1-2 側面部

No.	名　称	機　能
⑫	PTT キー	押すと送信します。離すと受信に切り替わります。
⑬	MONI キー （LAMP）キー	押すとスケルチが開き、受信音が聞こえます。 また FUNC キーを押したあとに［MONI］キーを押すと照明設定ができます。
⑭	POWER キー	約 1 秒間押すと電源の ON ／ OFF ができます。
⑮	DC ジャック	外部電源接続端子です。AC アダプターやオプションのシガーライターケーブルを接続し、車中で使用できます。安定化電源を使用するときは、DC7.0 ～ 16V 3A 以上のものを使用してください。

4-1-3 キー操作

名　称	機　能	FUNC キーを押した後	キーを長く押す（約 1 秒）	キーを押しながらダイヤル操作
1	1 を入力	ワイルドキー	クイックメモリーの登録および解除（メモリーモード時）	－
2	2 を入力	送信パワー設定		
3	3 を入力	アッテネーター設定		
4	4 を入力	電波型式切り替え		
5	5 を入力	トーンスケルチ／DCS ／空線キャンセラー設定		
6	6 を入力	チャンネルスコープ設定		
7	7 を入力	チャンネルステップ		
8	8 を入力	マイクゲイン設定		
9	9 を入力	コールチャンネル呼び出し		
0	0 を入力	プライオリティ機能	－	
・	小数点を入力	メモリークリア（メモリーモード時）		
ENT	入力の決定 リバース	RIT/TXIT 機能		
MAIN	バンド／バンク切り替え	シフト設定	メインバンドデュアル／モノバンド切り替え	バンド／バンク切り替え
SUB	バンド／バンク切り替え	メインバンド／サブバンドの周波数入れ替え	サブバンドデュアル／モノバンド切り替え	
V/P/M	運用モード切り替え	メモリー登録／メモリー編集／メモリーネーム機能	－	－
SCAN	スキャン機能	M → V 機能		スキャンモードの選択
FUNC	ファンクションキー	F 消灯	キーロック設定	周波数 1MHz UP/DOWN

4-2 ディスプレイの表示

No.	名　称	機　能
①	F / On / On	FUNC キーを押したときとキーロック動作時に点灯します。
②	◷	オートパワーオフ機能動作時に点灯します。
③	M / S	操作するバンドを示します。
④	ATT	アッテネーター機能動作時に点灯します。
⑤	V/ D	VOX 機能動作時とオートダイヤラー送出時に点灯します。
⑥	− / +	周波数のシフト方向を表示します。
⑦	T/ TSQ/ DCS	メインバンドのトーンスケルチ、DCS 機能動作時に点灯します。
⑧	♪	ベル機能設定時に表示します。
⑨	BS	バッテリーセーブ機能動作時に点灯します。
⑩	▭	電池残量を表示します。
⑪	145.000	メインバンドの周波数を表示します。
⑫	FM	電波型式（AM、FM、NFM、WFM）を表示します。
⑬	▣	空線信号キャンセラー機能設定時に点灯します。
⑭	1260.000	サブバンドの周波数を表示します。
⑮	1	メモリーバンク番号を表示します。
⑯	001	メモリーチャンネル番号を表示します。
⑰	1 3 5 7 9	受信レベルや送信パワーを表示します。
⑱	BUSY/ MUTE	スケルチが開くと点灯します。
⑲	VFO	運用モードの状態を表示します。

5. 基本操作

5-1 電源を入れる

1 ⏻[POWER]キーを長く(約2秒間)押すと電源が入ります。
電源を切るときも同じ操作をします。

5-2 周波数を調整する

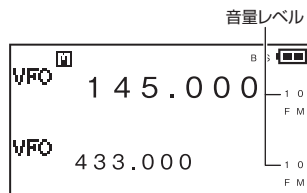
●メインバンドの周波数を調整する
メインダイヤル(上)を回します。

●サブバンドの周波数を調整する
サブダイヤル(上)を回します。
周波数は時計回りで高く、反時計回りで低くなります。

5-3 音量を調整する

音量調整範囲は0～20までの21段階です。
初期値は10です。

●メインバンドの音量を調整する
メインダイヤル(下)を回します。

●サブバンドの音量を調整する
サブダイヤル(下)を回します。
音量は時計回りで大きく、反時計回りで小さくなります。

注意

- イヤホンを使用するときは音量にご注意ください。小さいレベルで実際に音量を確かめながら大きくしてください。

参考

音が出ないときは

- スケルチが閉じているときや、ミュート機能が動作しているときは音量を大きくしても受信音は聞こえません。
  詳細は、次の「スケルチを調整する(☞P27)」と「ミュート機能(☞P28)」をお読みください。

5-4 スケルチを調整する

●スケルチとは

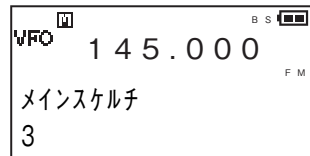
一定レベル以上の信号を受信したときだけ、スピーカーから音声を出す機能です。受信信号がないときにスピーカーから聞こえる耳障りな「ザー」というノイズを聞こえなくするもので信号の待ち受けがしやすくなります。スケルチのレベルを上げると強い信号は受信できますが、弱い信号は受信できなくなります。

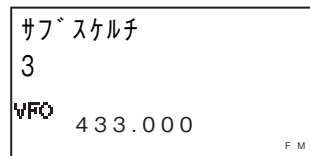
信号を受信して音を出すことを「スケルチが開く」と呼び、逆の場合を「スケルチが閉じる」と呼びます。どの程度の強さの信号を受信したときにスケルチが開くかは、スケルチの設定レベルで決まります。このレベルは受信場所や受信周波数などの条件によって若干変化するので調整できるようになっています。

スケルチレベルの調整範囲は0～9までの10段階です。

5-4-1 操作方法

●メインバンドのスケルチを調整する

メインダイヤルを1回押して、メインダイヤル（上）を回します。

●サブバンドのスケルチを調整する

サブダイヤルを1回押して、サブダイヤル（上）を回します。

スケルチレベルは時計回りで高く、反時計回りで低くなります。

- スケルチを常に開いた状態にしたいときはスケルチレベルを0にします。
- スケルチが開いた状態ではスキャンが働きません。スキャンを動作させるときはノイズ音が聞こえなくなるまでスケルチレベルを調整してください。

5-5 モニター機能

スケルチを強制的に開く機能です。受信信号が弱いときや音が途切れるときに、設定されているスケルチレベルに関わらず一時的にスケルチを開きます。この機能は「MONIキー設定(☞P96)」をモニター機能として設定した場合に有効になります。

モニター機能にはPUSHとHOLDの2種類があります。いずれも[MONI]キーを押すことでディスプレイにBUSYが点灯し、スケルチが開きます。

- PUSHの設定では[MONI]キーを押している間だけスケルチが開きます。[MONI]キーをはなすと再び設定されたスケルチレベルに戻ります。
- HOLDの設定では一度[MONI]キーを押すとスケルチが開いたままの状態を保ちます。再度[MONI]キーを押すとモニター機能は解除され、設定されたスケルチレベルに戻ります。
- PUSHとHOLDの切り替え方法はセットモードの「MONIキー動作の設定(☞P97)」をお読みください。

参 考

- モニター機能を使用するとトーンスケルチやDCS空線信号キャンセラーも一時的に解除されます。

5-6 ミュート機能

消音機能です。信号を受信してスケルチが開いても音声を出しません。この機能は「MONIキー設定(☞P96)」をミュート機能として設定した場合に有効になります。

ミュート機能にもPUSHとHOLDの２種類があります。いずれも[MONI]キーを押すことでディスプレイのMUTEが点灯し、ミュート機能が動作します。

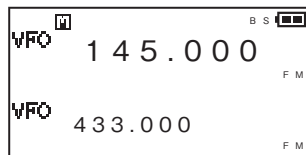
参 考

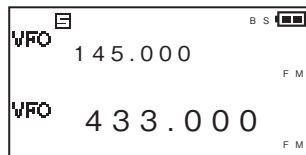
- モニター機能とミュート機能はいずれか一方しか選択できません。

5-7 操作するバンドを選ぶ

メインバンドまたはサブバンドから操作するバンドを選択します。

1 [MAIN]キーまたは[SUB]キーを押して操作するバンドを選択します。

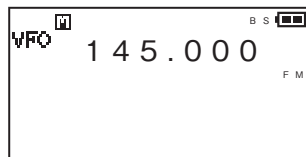
デュアルバンド表示の場合、選択したバンドの周波数が大きな文字で表示されます。
モノバンド表示の場合、選択したバンドのみが表示されます。

2 続けて[MAIN]キーまたは[SUB]キーを押すとバンド移動ができます。

参 考

- [MAIN]キーまたは[SUB]キーを押したままダイヤル（上）を回すと、すばやくバンド移動できます。
- [M]はメインバンドが操作バンドであることを示し、[S]はサブバンドが操作バンドであることを示します。

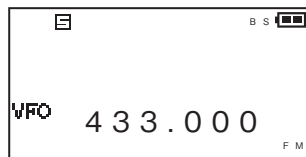
5-7-1 モノバンドで運用する

●メインバンドをモノバンドで運用する

1 [MAIN]キーを長く（約1秒）押します。

メインバンドがモノバンドで表示されます。
デュアルバンドに戻すときは、もう一度同じ操作を繰り返します。

●サブバンドをモノバンドで運用する

1 [SUB]キーを長く（約1秒）押します。

サブバンドがモノバンドで表示されます。
デュアルバンドに戻すときは、もう一度同じ操作を繰り返します。

5-7-2 サブバンドとメインバンドの周波数を入れ替える

メインバンドとサブバンドともにアマチュア無線の送受信帯域に周波数を設定しているときに、サブバンドとメインバンドの周波数を入れ替えることができます。

1 [FUNC]キーを押します。

2 [SUB]キーを押します。

サブバンドとメインバンドの周波数が入れ替わります。

注 意

- サブバンドで空線信号キャンセラーを設定しているときに周波数の入れ替えをおこなうと、メインバンドでは空線信号キャンセラーが一時的に無効になります。

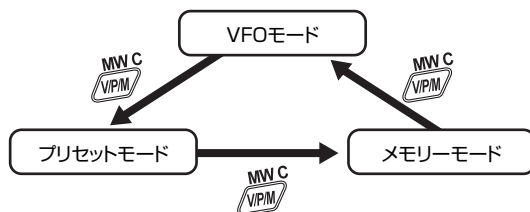
6. 運用モード

DJ-G7にはVFOモード、プリセットモード、メモリーモードの3つの運用モードがあります。

VFO モード	可変周波数発振器（Variable Frequency Oscillator）の略で、ダイヤルを回して周波数を選択するモードです。
プリセットモード	サブバンドには、AM ラジオ、FM ラジオ、TV1 ～ 62 チャンネルの音声周波数があらかじめプリセットされています。 メインバンドは、運用周波数限定機能により、レピーター周波数帯のプリセットモードが追加できます。
メモリーモード	あらかじめ登録しておいた周波数を呼び出して運用するモードです。メモリーの登録を行うときは「メモリーモード（☞ P35）」をお読みください。

注 意

- TV音声チャンネルはアナログ地上波のみ受信できます。地上波デジタルのTV音声は受信できません。

- 運用モードの切り替え
  MW C V/P/M キーを押すごとに、図に示す順にモードが切り替わります。

参 考

- プリセットモードを運用モードから外すことができます。
- メインバンドにレピーター運用周波数のみをプリセットモードとして追加できます。
  詳しくは「運用周波数限定機能（☞P87）」と「プリセットモード設定（☞P87）」をご覧ください。

6-1 VFOモードでの運用

工場出荷時から最初に電源を入れたときに表示されるモードです。ダイヤルを回して受信周波数を選択することができます。

●バンドの切り替え

MAIN(A)またはSUB(B)キーを押すとバンドの選択ができます。

6-2 チャンネルステップ周波数の設定

チャンネルステップとは総務省によって無線通信やラジオ、テレビ放送などに割り当てられた周波数と周波数の間隔のことです。
本機は標準的なステップがプログラムされていますが､必要に応じて変更できます。
設定方法は「チャンネルステップの変更(☞P57)」をご参照ください。

6-3 1MHz UP/DOWN操作

●メインバンドの周波数を変更する

メインバンドの周波数を大きく変更したいときは、VFOモードでFUNCキーを押しながらメインダイヤル(上)を回すと1MHz単位で増減します。

●サブバンドの周波数を変更する

サブバンドの周波数を大きく変更したいときは､VFOモードでFUNCキーを押しながらサブダイヤル(上)を回すと1MHz単位で増減します。

参 考

- サブバンドの1MHz UP/DOWN操作は、各バンドの範囲に関係なく増減します。
- FUNCキーを押したまま一度もダイヤルを回さずに、約1秒経過するとキーロックが動作します。

6-4 周波数を直接入力するときの操作

キーボードを操作して、周波数を直接入力できます。

例1：145.000MHzと入力するとき
1(WILD) 4GHI(MODE) 5JKL(TONE)と入力してENT(#RPT)キー

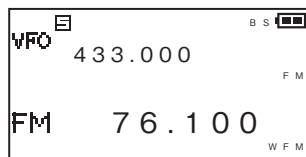
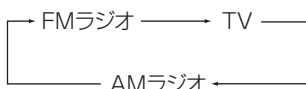
例2：0.702MHzと入力するとき(サブバンド)
CLR(＊) 7PQRS(STEP) 0(PRIO) 2ABC(PO)と入力してENT(#RPT)キー

0(PRIO) 7PQRS(STEP) 0(PRIO) 2ABC(PO)と入力してENT(#RPT)キー

例3：1270.680MHzと入力するとき
1(WILD) 2ABC(PO) 7PQRS(STEP) 0(PRIO) 6MNO(SCOPE) 8TUV(MIC-G)と入力してENT(#RPT)キー

と入力します。
キーを押し間違えたときは､[PTT]キーまたはFUNCキーを押すと初めから入力をやり直すことができます。

6-5 プリセットモードでの運用

1. VFOモードから[MW C / V/P/M]キーを1回押すと、ディスプレイに受信モードが表示されプリセットモードになります。

2. [B / SUB]キーで聴きたいバンドを選択します。
[B / SUB]キーを押すごとに右のように切り替わります。

3. サブダイヤルを回して周波数(TVの場合はチャンネル)を選択します。

6-6 受信するには

1. 運用するモードで周波数を合わせます。希望周波数で信号を受信すると、ディスプレイに BUSY と受信レベルが表示され、受信音声が聞こえます。またこのとき、緑色のRXランプが点灯します。

●受信できる周波数範囲は次のとおりです。

メインバンドの受信周波数
144MHz帯:136.000 ~ 169.995MHz
430MHz帯:420.000 ~ 469.995MHz
1200MHz帯:1240.000 ~ 1299.995MHz

サブバンドの受信周波数
0.531 ~ 1299.995MHz

6-7 送信するには

メインバンドでのみ送信することができます。

1 運用するモードで周波数を合わせます。

2 ［PTT］キーを押すと、赤色のランプが点灯し送信状態となります。

3 ［PTT］キーを押しながら、本体前面部の内蔵マイクから口元を5cm程離して普通の大きさの声で話します。

4 ［PTT］キーを離すと送信が終了し受信状態になります。

6

- 運用周波数をV-V、U-U、1200-1200帯に設定しているときに送信すると、ディスプレイに「受信停止中」を表示して一時的にサブバンドの受信を停止します。
- ［PTT］キーを押しながら［MONI］キーを押すと、トーンコール信号が送信できます。
- マイクに向かって話すとき、声が大きすぎたり口元が近すぎたりすると、送信音が歪みますのでご注意ください。
- 本機は防水を施すため、内蔵マイクの手前に特殊な布製素材を装着しています。このため、内蔵マイクを使用したときと外部マイク等のアクセサリーを使用したときとで若干音質が変わって聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 送信周波数範囲外で［PTT］キーを押すと、ディスプレイに「送信できません」と表示されアラーム音が鳴ります。この状態では送信することはできません。
- サブバンドのスキャン中に送信すると一時的にスキャンを停止します。送信が終了するとスキャンを再開します。

- 送信可能な周波数の範囲は、次のとおりです。
  144.000 ～ 145.995MHz
  430.000 ～ 439.995MHz
  1260.000 ～ 1299.995MHz

6-8 トーンコール機能

送信時にトーン信号を送ったり、通信相手を呼び出したりするときなどにご利用ください。

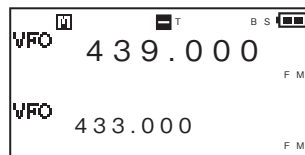
- [PTT]キーを押しながら[MONI]キーを押している間、トーン信号が送信されます。
- トーン周波数は初期値1750Hzで、セットモードより変更できます。(☞77ページ)
- トーン信号送信中は、CTCSS/DCSトーンは一時的に中断されます。

参 考

- ヨーロッパで使用されているトーンバースト式アマチュアレピーターへのアクセスに利用できます。

6-9 レピーター機能

遠く離れた無線局とも交信ができるように、ビルの屋上や山頂にレピーター（自動中継局）が設置されています。このレピーターを経由すると、小さな送信出力で遠くの無線局と交信ができます。

受信周波数をレピーター周波数に合わせると、自動でレピーター機能が動作します。

●レピーター周波数表

バンド	周波数帯	トーン	シフト
430MHz帯	439.000 ～ 439.995	88.5Hz	-5MHz
1200MHz帯	1290.000 ～ 1292.995	88.5Hz	-20MHz

参 考

- #RPT ENTキーを押すとリバース動作となり、送信と受信の周波数を一時的に入れ替えて、相手局と直接交信できるかを確認することができます。リバース動作を解除するには、#RPT ENTキーを押します。
- この自動設定（オートレピーター設定）を解除して、任意のトーンやシフトに手動で設定できます。(「シフト設定（☞P79）」／「トーンスケルチ機能（☞P50）」のトーン「T」)

7. メモリーモード

メモリーモードとは、あらかじめよく使う周波数や設定を登録して、呼び出して使うモードです。
周波数を使いやすいようにジャンルわけして登録する場所を「バンク」と呼び、登録された周波数を「チャンネル」と呼びます。

7-1 メモリーの種類と使いかた

DJ-G7には次の7種類のメモリーバンクがあります。

通常メモリー用バンク	メモリーモードで呼び出す通常のチャンネルです。合計 1000ch の周波数を登録できます。よく使う周波数を登録しておくと、簡単に呼び出すことができます。
プログラムスキャン用バンク	決められた周波数範囲の中で信号を探すプログラムスキャン機能に使用します。50 組の周波数範囲（上限と下限）を登録できます。
デュアル用バンク	メインバンド・サブバンドの両方を同時に呼び出します。デュアルバンドで 100 組を登録できます。
プライオリティ用バンク	プライオリティ機能（優先受信）に使用します。100ch の周波数を登録できます。
コールチャンネル用バンク	コールチャンネルを登録します。
サーチパスメモリー用バンク	スキャン時に停止してほしくない周波数を登録しておくと、VFO スキャン時とプログラムスキャン時にその周波数をパスします。100ch の周波数を登録できます。常に出ているノイズ信号などを登録すると便利です。
発信器探索機能用バンク	発信器探索機能を使用するときに呼び出す特殊バンクです。100ch を登録できます。
盗聴器発見機能用バンク	盗聴器でよく使われている周波数を登録してあります。メモリーの登録や消去はできません。メモリースキップのみ変更できます。

- サーチパスメモリー用バンクは、同じ周波数を重複して登録することはできません。登録しようとするとエラー音が鳴ります。

7-2 メモリーチャンネルの登録

DJ-G7でのメモリー登録方法です。

1 VFOモードで登録したい周波数、トーンスケルチなどを設定しておきます。

メモリーチャンネルには、次の内容を登録することができます。
- 周波数
- トーン周波数
- DCSコード
- 空線信号周波数
- 電波型式(受信モード)
- トーンスケルチ／逆トールスケルチ／ DCS ／空線信号キャンセラー
- メモリーネーム
- スキップ設定
- シフト設定

2 FUNCキーを押します。

3 ダイヤルを回して登録するバンクとメモリーチャンネルを選択します。

メインバンドで登録するときは、メインダイヤルでバンクとメモリーチャンネルを選択します。
サブバンドで登録するときは、サブダイヤルでバンクとメモリーチャンネルを選択します。
すでに登録されているメモリーチャンネルを選択すると、ディスプレイにMRが表示されます。

- バンクの種類を変更するときは、ダイヤル(下)、メモリーチャンネルを変更するときはダイヤル(上)を回します。

- バンク

バンクとメモリーの関係は次のとおりです。

0～9	通常メモリー用バンク
PRG	プログラムスキャン用バンク
DUAL	デュアル用バンク　メインバンド・サブバンドをペアにして1つのメモリーに登録します。
PRIO	プライオリティ用バンク
CALL	コールチャンネル用バンク
PASS	サーチパスメモリー用バンク
TSF	発信器探索機能用バンク
BUG	盗聴器発見機能用バンク（編集できません）

用途に合わせて登録するバンクを選びます。

- メモリーチャンネル

バンクの種類によって登録できるメモリーチャンネルは次のとおりです。

0～9	000～099
PRG	0A～49B
DUAL	000～099
PRIO	000～099
CALL	144MHz帯コールチャンネル：VHF 430MHz帯コールチャンネル：UHF 1200MHz帯コールチャンネル：1.2
PASS	000～099
TSF	000～099

4 MW C V/P/M キーを押して登録します。

登録後はもとの運用モードに戻ります。

7

参 考

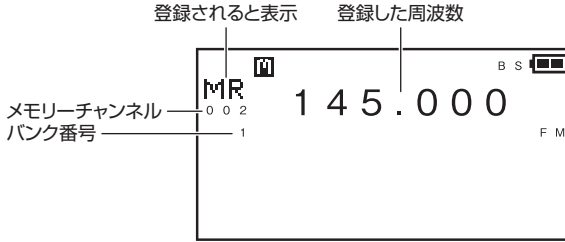
- 初期設定ではデータの登録されたメモリーチャンネルへの上書きはできません。
- メモリーチャンネルの削除や編集をおこなうときは､「ライトプロテクト（メモリー保護）機能（☞P89）」の設定を無効または一時解除にしてからおこなってください。
- 弊社ウェブサイト（http://www.alinco.co.jp/）より無償でダウンロードできるソフトウェアと別売りのPC接続ケーブル（ERW-7）を使用するとこれらのメモリーバンクを、1000ch以内の任意のメモリーチャンネル数×最高50バンクまで自由に区切ることができるようになります。この操作を本機単体のボタン操作だけでおこなうことはできません。

注 意

- 2バンド表示のときのみ「デュアルバンク」が選択できます。
- プログラムスキャンチャンネル用バンクは○○Aと○○Bの2つの周波数を登録します。
  例）0Aに145.020MHzを登録、0Bに146.100MHzを登録したとき。
  プログラムスキャンを行ったときは、0Aの145.020MHzと0Bの146.100MHzの範囲内でスキャンをおこないます。

例：メインバンドから145.000MHzをバンク1番の002チャンネルに登録する場合。

① VFOモードでメインバンド側を操作して145.000MHzに合わせます。
②FUNCキーを押します。
③メインダイヤル（下）を回してバンクを「1」に合わせます。
④メインダイヤル（上）を回してメモリーチャンネルを「002」に合わせます。
⑤MW C V/P/Mキーを押すと登録できます。

●メモリー登録例の図

参 考

- メモリーの追加増設はできません。
- 登録したメモリーチャンネルは、周波数の代わりにアルファベット、記号、数字、ひらがな、カタカナ、漢字を表示することができます。詳細は「メモリーネーム機能（☞P44）」をお読みください。
- メモリーチャンネルの呼び出しはダイヤルの操作とキーボード入力のどちらでも可能です。

7-3 メモリーチャンネルの呼び出し

1 MW C V/P/M キーを押してメモリーモードにします。

2 A MAIN または B SUB キーを押して呼び出したいメモリーバンクを選択します。

3 ダイヤルを回してメモリーチャンネルを選択します。

注 意

- デュアル用バンクのデータを呼び出しているときは、メインバンド／サブバンドの切り替えはできません。
- サブバンドで登録したメモリーチャンネルで、メインバンドの範囲外の周波数は、メインバンドでは表示できません。
  メインバンドの周波数範囲は「受信するには（☞P32）」をご覧ください。

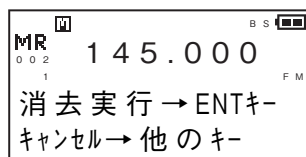
例：メインバンドでバンク1の002チャンネルに登録した145.000MHzを呼び出すとき

①メインバンドを操作バンドに設定し、MW C V/P/M キーを押してメモリーモードにします。

②A MAIN キーを押してバンク「１」に合わせます。

③メインダイヤル（上）を回してチャンネルを「002」に合わせます。
メモリーに登録されているメモリーチャンネルが表示されます。

7-4 メモリーチャンネルの消去

1. 「ライトプロテクト（メモリー保護）機能（☞P89）」の設定を「無効」または「一時解除」にします。
2. MW C V/P/M キーを押して、メモリーモードにします。
3. 消去したいメモリーチャンネルを選択します。
4. FUNC キーを押してディプレイにFを点灯させせます。
5. CLR キーを押すと、右のように確認のメッセージが表示されます。

6. #RPT ENT キーを押すとメモリーされたチャンネルが消去されます。それ以外のキーを押すとキャンセルします。

- 一度消去したデータの復元はできません。間違って必要なデータを消去しないようご注意ください。
- 大切なデータを誤って消去しないよう、データの消去を行った後は、「ライトプロテクト（メモリー保護）機能（☞P89）」の設定を有効に戻してください。
- オールリセット（☞P105）をおこなうとすべてのメモリーデータが消去されます。

参考

- ライトプロテクトの設定を「一時解除」にして再度電源を入れると、自動的に「有効」に設定されます。

7-5 メモリーチャンネルの移動

登録したバンク(0～9)のメモリーチャンネルを、別のバンク(0～9)のメモリーチャンネルに移動できます。

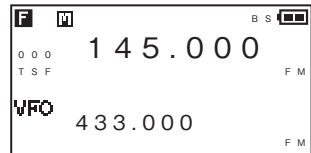
1. **MW C V/P/M キーを押してメモリーモードにします。**
2. **移動させたいメモリーチャンネルに合わせます。**
3. **FUNC キーを押します。**
4. **MW C V/P/M キーを押します。**
5. **ダイヤルを回して移動先のバンクとメモリーチャンネルを選択します。**
   すでに登録されているメモリーチャンネルを選択すると、ディスプレイにMRが表示されます。
6. **MW C V/P/M キーを押します。**
   メモリーチャンネルが移動されます。

参 考

- メモリーチャンネルの上書き登録をおこなうときは、あらかじめ「ライトプロテクト(メモリー保護)機能(☞P89)」の設定を「無効」または「一時解除」にしてください。
- [PTT]、FUNC キーを押すとキャンセルされます。

7-6 発信器探索機能用メモリーの登録

1. **VFOモードで登録したい周波数に合わせます。**
2. **FUNC キーを押します。**
3. **ダイヤル(下)を回して登録する発信器探索機能用バンクを選択します。**
   ディスプレイ左に「TSF」と表示されるバンクを選択します。

4. **ダイヤル(上)を回してメモリーチャンネルを選択します。**
5. **MW C V/P/M キーを押します。**
   メモリーが登録されます。

7-7 コールチャンネルの登録

QSOで一番頻繁に使う呼び出しチャンネル、レピーター周波数、クラブチャンネルなどをコールチャンネルに登録します。

1 VFOモードで登録したい周波数に合わせます。

2 FUNCキーを押します。

3 ダイヤル(下)を回して登録するコールバンクに合わせます。

周波数帯に合わせて自動的にチャンネルが選択されます。

4 MW C V/P/Mキーを押します。

メモリーチャンネルに登録して、もとの運用モードに戻ります。

参考

- メモリーチャンネルの上書き登録をおこなうときは、あらかじめ「ライトプロテクト（メモリー保護）機能（☞P89）」の設定を「無効」または「一時解除」にしてください。
- コールチャンネルに登録できるのは、アマチュア無線用バンドの周波数のみです。
- コールチャンネルは編集できますが消去はできません。

7-8 クイックメモリー

メモリーモードの中でもよく使うメモリーチャンネルをすばやく呼び出す機能です。クイックメモリーはWILD 1～CALL 9キーに登録できます。

7-8-1 クイックメモリーの登録

1 MW C V/P/Mキーを押してメモリーモードにします。

2 クイックメモリーに登録するメモリーチャンネルを選択します。

3 キーボードのWILD 1～CALL 9キーのいずれかを長く（約1秒）押します。

クイックメモリーの解除は上記の1と3の操作をおこないます。

参考

- クイックメモリーに登録されているメモリーチャンネルを編集すると、編集内容がクイックメモリーに反映されます。

7-8-2 クイックメモリーの呼び出し

1 キーボードのWILD 1～CALL 9キーのいずれかを押します。

2 MW C V/P/Mキーを押します。

参 考

- クイックメモリーは、どの運用モードからでも呼び出すことができます。

7-9 メモリースキップ機能

メモリースキップ機能とは、メモリースキャン中に、設定したメモリーチャンネルを受信せずに飛ばしてスキャンする機能です。放送や空線信号の出ているメモリーチャンネルは必ずそこでスキャンが止まるので、そのようなチャンネルに設定しておくと効率のよいスキャンがおこなえます。

1 MW C V/P/Mキーを押してメモリーモードにします。

2 スキップさせたいメモリーチャンネルを選択します。

3 ＊ CLRキーを押します。

ディスプレイ左のMRが「SKIP」に変わり、メモリースキップが設定されます。
メモリースキップを解除するには対象のメモリーチャンネルを選択して上記の操作をおこないます。
「SKIP」の表示がMRに変わり、メモリースキップが解除されます。

7

7-10 メモリーネーム機能

メモリーモードで登録したメモリーチャンネルに数字、アルファベット、ひらがな、カタカナ、漢字、記号をあわせてすべて全角で8文字、すべて半角で16文字の名前をつけることができます。コールサインや放送局名などに名前を付けて登録すると、メモリーチャンネルが見やすくなります。

●メモリーネームの登録方法

1 MW C V/P/M キーを押してメモリーモードにします。

2 FUNC キーを押してディスプレイにFマークを点灯させせます。

3 MW C V/P/M キーを数回押してメモリーネームモードにします。
ディスプレイに「メモリ名の編集」と表示されます。

4 キーボードで文字を入力します。
キーボードにそれぞれの文字が割り当てられています。
詳しくは「キーボードに割り当てられている文字一覧(☞P45 ～ 47)」をご参照ください。

5 ダイヤル(下)を回すと文字入力のカーソルを移動できます。

6 文字を消すには＊ CLR キーで1文字ずつ消去できます。
すべての文字を消すにはB SUB キーで消去できます。

●メモリーネームの入力方法

キーボードにはP45 ～ 47の表の文字が割り当てられています。
キーボードのキーを続けて押していくと文字が順送りに表示されます。
キーボードのキーを押した後、ダイヤル(上)を回すと文字が順送りに表示され、さらにダイヤルを回すと、漢字を表示します。

入力例:「G７アル大阪!」と入力するとき

1 MODE 4GHI キーを押してダイヤル(上)を回し「G」に合わせます。

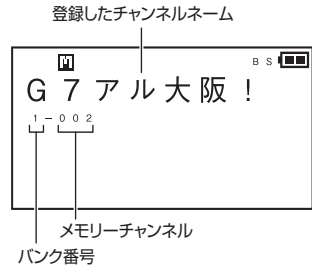
2 STEP 7PQRS キーを1回押します。

3 WILD 1 キーを押してダイヤル(上)を回し「ア」に合わせます。

4 CALL 9WXYZ キーを押してダイヤル(上)を回し「ル」に合わせます。

5 MODE 4GHI キーを押してダイヤル(上)を回し「大」に合わせます。

6 SCOPE 6MNO キーを押してダイヤル(上)を回し「阪」に合わせます。

7 MAIN キーを押してダイヤルを回し「！」に合わせます。

8 FUNC キーまたは［PTT］キーを押すと設定が終了します。

参考

- ［MONI］キーを押しているあいだだけメモリーネームに設定した周波数が表示されます。

●キーボードに割り当てられている文字一覧

キー	文字
WILD 1	1　あいうえお　ぁぃぅぇぉ　アイウエオ　ァィゥェォ
PO 2ABC	2　ＡＢＣ　ａｂｃ　かきくけこ　がぎぐげご　カキクケコ ガギグゲゴ
ATT 3DEF	3　ＤＥＦ　ｄｅｆ　さしすせそ　ざじずぜぞ　サシスセソ ザジズゼゾ
MODE 4GHI	4　ＧＨＩ　ｇｈｉ　たちつてと　っ　だぢづでど タチツテト　ッ　ダヂヅデド
TONE 5JKL	5　ＪＫＬ　ｊｋｌ　なにぬねの　ナニヌネノ
SCOPE 6MNO	6　ＭＮＯ　ｍｎｏ　はひふへほ　ばびぶべぼ　ぱぴぷぺぽ ハヒフヘホ　バビブベボ　パピプペポ
STEP 7PQRS	7　ＰＱＲＳ　ｐｑｒｓ　まみむめも　マミムメモ
MIC-G 8TUV	8　ＴＵＶ　ｔｕｖ　やゆよ　ゃゅょ　ヤユヨ　ャュョ
CALL 9WXYZ	9　ＷＸＹＺ　ｗｘｙｚ　らりるれろ　ラリルレロ
PRIO 0	0　わゎゐゑをん　ワヮヰヱヲン　ヴヵヶ
MAIN A	、。，．・：；？！゛゜´｀¨＾￣＿ヽヾゝ ゞ〃仝々〆〇ー―‐／＼～‖｜…‥‘’“” （）〔〕［］｛｝〈〉《》「」『』【】＋－ ±×÷＝≠＜＞≦≧∞∴♂♀°′″℃￥＄¢ £％＃＆＊＠§☆★○●◎◇◆□■△▲▽▼ ※〒→←↑↓〓∈∋⊆⊇⊂⊃∪∩∧∨￢⇒⇔ ∀∃∠⊥⌒∂∇≡≒≪≫√∽∝∵∫∬Å‰♯ ♭♪†‡¶◯

●キーボードに割り当てられている文字一覧（漢字）

キー	文字
WILD 1	あ：愛　圧 い：井　以　伊　位　移　囲　域　育　一　茨 う：隠　羽　宇　運 え：英　永　衛　易　越　円　媛　園　遠 お：押　横　応　岡　屋　音　温
PO 2ABC	か：可　家　化　火　何　河　歌　画　賀　回　海　開　解　外 害　柿　格　拡　確　学　隔　潟　活　轄　割　完　感　乾 間　関　菅　簡　幹　管　監　岩　岸　丸 き：紀　畿　姫　規　気　喜　基　器　帰　岐　輝　機　旧　休 久　宮　逆　急　救　去　許　距　強　京　教　橋　共　業 局　玉　金　禁　近　均 く：九　区　空　熊　群 け：下　継　経　系　形　型　警　桁　見　県　検　言　限　原 現　減　源 こ：小　古　固　己　庫　糊　五　語　護　後　御　項　公　更 光　浩　口　興　構　広　甲　行　向　江　香　高　効　港 航　降　号　合　国　刻　黒　込
ATT 3DEF	さ：左　佐　才　災　細　在　西　崎　埼　作　削　索　察　札 沢　澤　三　山　残 し：仕　始　指　施　視　私　子　士　止　四　市　思　紙　示 字　自　児　時　滋　鹿　式　七　実　遮　車　手　取　種 受　秋　周　終　州　集　重　充　宿　出　俊　瞬　所　署 処　除　勝　松　消　照　象　上　常　城　縄　信　神　森 新　振　心 す：水　衰　数 せ：世　瀬　政　青　制　成　盛　静　跡　石　接　設　川　選 専　先　仙　船　線　全　前 そ：相　送　総　操　増　蔵　束　則　側　測　足　続　村
MODE 4GHI	た：他　待　対　帯　隊　滞　大　太　台　第　滝　択　脱　単 探　端　丹　短　団　断 ち：地　千　知　池　中　沖　庁　町　鳥　長　朝　張　聴　値 つ：津　追　通 て：締　定　停　鉄　天　転　田　電 と：戸　都　度　土　答　灯　当　東　島　湯　登　盗　同　藤 道　動　栃　特　徳　読　独
TONE 5JKL	な：奈　那　内　南 に：二　日　認 ぬ：沼 の：濃　能

●キーボードに割り当てられている文字一覧（漢字）

キー	文字
SCOPE 6MNO	は：波　覇　馬　売　舶　八　発　坂　抜　半　播　阪　飯　範 ひ：非　尾　百　表　秒　浜　品 ふ：不　夫　阜　府　富　福　武　部　伏　幅　復　複　分　文　聞 へ：兵　並　平　別　編　変 ほ：保　報　方　放　芳　防　北　幌　本
STEP 7PQRS	ま：磨　毎　迄　万 み：民 む：無　務 め：名　明　面 も：木　目
MIC-G 8TUV	や：谷　野 ゆ：右　有　優 よ：様　葉　陽　用
CALL 9WXYZ	ら：来　絡　楽 り：理　裏　離　梨　力　陸　了　良　両　量　林　鈴 る：留　類 れ：令　列　連 ろ：路　六　録
PRIO 0	わ：和

参 考

- メモリーネームを設定するとメモリーモードでチャンネルネームを優先して表示します。
- 表以外にも一部使用可能な文字があります。
- 「DJ-G7クローンユーティリティ」を使うと、任意の文字やアイコンを自分で作成して最大8文字分のメモリーネームを設定することができます。「DJ-G7クローンユーティリティ」は弊社ホームページで無償配布しています。

7

8. キーボードに割り当てられた機能

DJ-G7では各キーの上部に印字されている機能が各キーに割り当てられています。割り当てられた機能を設定するには、[FUNC]キーを押してディスプレイにFを点灯させ、キーを押します。

8-1 ショートカット機能

［MONI］キー、[WILD 1]キーのそれぞれに、セットモード内の任意のメニューを割り当てることができます。
よく使う機能を登録しておくと、すばやく設定変更できます。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイにFを点灯させます。

2 ［MONI］キー、または[WILD 1]キーを押して割り当てた機能を呼び出します。

3 その後の操作は割り当てたセットモードの操作に沿っておこないます。

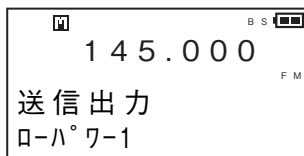
機能の登録方法は「ショートカット機能の設定(☞P99)」をご参照ください。

8-2 送信出力設定

送信出力のレベルを設定します。出力を下げると電波の届く範囲が狭くなりますが、消費電力を抑えバッテリーを長持ちさせることができます。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイにFを点灯させます。

2 [PO 2ABC]キーを押すと「送信出力」が表示されます。

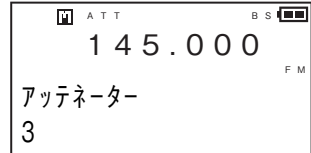
M　BS
145.000
FM
送信出力
ローパワー1

3 ダイヤル(上)を回して、送信出力を4段階で選択します。

「送信出力」は「ローパワー１」→「ローパワー２」→「ミドルパワー」→「ハイパワー」の順で出力が大きくなります。1200MHz帯では、「ローパワー」←→「ハイパワー」の2段階で選択できます。

8-3 アッテネーター（ATT）機能

受信している信号が他の強い信号の影響を受けているようなときに使用します。アッテネーターを設定すると、目的の信号の強さは弱くなりますが、影響を与える他の信号も弱くするので、目的の信号をクリアに聞くことができます。減衰量は4段階で最大約15dBです。

1 FUNC キーを押してディスプレイにFを点灯させます。

2 ATT 3DEF キーを押すと「アッテネーター」が表示されます。

3 ダイヤル（上）を回して、「OFF」または1 ～ 4までの範囲でアッテネーターの強さを選択します。

アッテネーターの減衰量は「1」小さい←→「4」大きいの順で選択できます。

注意

- アッテネーター機能は、メインバンドとサブバンドの両方に機能します。

8-4 電波型式切り替え設定

受信したい電波型式を手動で切り替えます。

1 あらかじめ、受信したい周波数に合わせておきます。

2 FUNC キーを押してディスプレイにFを点灯させます。

3 MODE 4GHI キーを押すと「電波型式」が表示されます。

4 ダイヤル（上）を回して電波型式を切り替えます。サブバンドのときは、MODE 4GHI キーを押して「オート」から各電波型式に切り替えます。再度 MODE 4GHI キーを押すと「オート」に戻ります。

電波型式が図のように切り替わります。

→AM←→ナローFM←→FM←

注意

- メインバンドでは、AM、WFMモードへの切り替えはできません。
- サブバンドでは、WFMモードからAM、FM、ナローFMモードへの切り替えはできません。またその逆の切り替えもできません。

8-5 トーンスケルチ機能／DCS機能／空線信号キャンセラー機能設定

クラブメンバーやローカル局など、特定の局を待ち受け受信する方法にはトーンスケルチ（CTCSS）機能とDCS機能があります。
あらかじめ設定したトーン信号を付加して送信し、自局と相手局でトーン信号が一致したときのみスケルチが開き受信できる機能です。
デュアルバンド受信のとき、トーンスケルチ、DCS機能は1つのバンドのみ有効になります。サブバンドでは空線信号キャンセラーも設定できます。

- トーンスケルチ機能とDCS機能を同時に併用することはできません。

1 **FUNC キー押してディスプレイにFマークを点灯させます。**

2 **TONE 5JKL キーを押す毎に**
トーン → トーンスケルチ → 逆トーンスケルチ → DCS → 空線信号キャンセラー → 設定解除（通常モード）の順で切り替わります。

- 空線信号キャンセラーの表示はサブバンドのみ表示されます。

8-5-1 トーンスケルチ機能

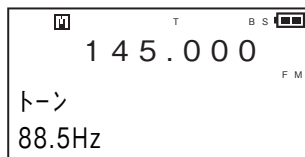
トーンスケルチ機能にはいくつかの種類があります。

トーン「T」　：エンコーダー機能のみの設定です。レピーターのアクセスに使用します。特定の局を選択して待ち受け受信することはできません。

トーンスケルチ「TSQ」　：エンコーダー／デコーダー機能の設定で、選択受信がおこなえます。

逆トーンスケルチ「SQ」：デコーダー機能の設定で、トーンがあるときのみスケルチが閉じます。主にタクシー無線を受信するときに使います。

1 **FUNC キーを押してディスプレイにFを点灯させます。**

2 **TONE 5JKL キーを数回押して「トーン」、「トーンスケルチ」または「逆トーンスケルチ」を選択します。**

3 **ダイヤル（上）を回して下記の39個の中からトーン周波数を選択します。**

（単位：Hz）

67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7	82.5	85.4
88.5	91.5	94.8	97.4	100.0	103.5	107.2	110.9
114.8	118.8	123.0	127.3	131.8	136.5	141.3	146.2
151.4	156.7	162.2	167.9	173.8	179.9	186.2	192.8
203.5	210.7	218.1	225.7	233.6	241.8	250.3	

＜トーン周波数一覧＞

［PTT］キーまたは[FUNC]キーを押すと設定が終了します。
トーン周波数が一致すれば「TSQ」の表示が反転します。

4 **トーンスケルチ機能を解除するには、[FUNC]キーを押して、ディスプレイに**F**を点灯させます。[TONE 5JKL]キーを数回押して「設定解除」を選択し、[FUNC]キーを押すとトーンスケルチ機能が解除されます。**

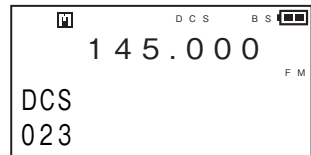
8

- トーンスケルチを使うときも、通常のスケルチレベルはあらかじめ適正に調整してください。通常のスケルチを開いたままにしていると、トーンスケルチ動作に時間がかかります。

8-5-2 DCS機能

トーンスケルチ機能と似た原理で選択受信をおこなう機能です。
104種類のDCSコードが選択できます。

1 **[FUNC]キーを押してディスプレイに**F**を点灯させます。**

2 **[TONE 5JKL]キーを数回押して「DCS」を選択します。**

3 ダイヤル（上）を回してDCSコードを選択します。

DCSコードは次の104種類が選択できます。

023	025	026	031	032	036	043	047
051	053	054	065	071	072	073	074
114	115	116	122	125	131	132	134
143	145	152	155	156	162	165	172
174	205	212	223	225	226	243	244
245	246	251	252	255	261	263	265
266	271	274	306	311	315	325	331
332	343	346	351	356	364	365	371
411	412	413	423	431	432	445	446
452	454	455	462	464	465	466	503
506	516	523	526	532	546	565	606
612	624	627	631	632	654	662	664
703	712	723	731	732	734	743	754

［PTT］キーまたはFUNCキーを押すと設定が終了します。

4 DCS設定機能を解除するには、FUNCキーを押して、ディスプレイにFを点灯させます。TONE 5JKLキーを数回押して「設定解除」を選択し、FUNCキーを押すとDCS機能が解除されます。

参考

- DCS機能を設定できる周波数は、メインバンド、サブバンドともに次のとおりです。
  136.000 ～ 169.995MHz
  420.000 ～ 469.995MHz
- DCS運用時のスケルチ動作の設定については「DCSタイプ設定（☞P86）」をご参照ください。

8-5-3 空線信号キャンセラー機能

サブバンドで鉄道無線やMCA無線を受信するときに、音声信号がないときに聞こえる空線信号音（「ピー」や「ギャラギャラ」音）を判別してスケルチをかける機能です。

1 空線信号が出ている周波数に合わせます。

2 FUNCキーを押してディスプレイにFを点灯させます

3 TONE 5JKLキーを数回押して「空線信号キャンセラー」を選択します。

ディスプレイ右に🚃とJR、または300 ～ 3000の数字が表示されます。

空線信号キャンセラー
JR(2280)
352.5375
FM

4 ダイヤル（上）を回してスケルチが閉じるように調整します。

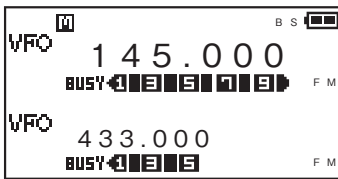
5 空線信号キャンセラー機能を解除するには、TONE 5JKLキーを数回押してディスプレイに「設定解除」と表示されるメニューを選択し、FUNCキーを押します。

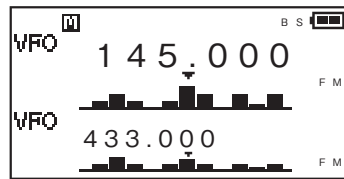
空線信号キャンセラー機能が解除されます。

- 空線信号キャンセラー機能は受信時のみ有効な機能です。送信中にはこの機能は働きません。

8-6 チャンネルスコープ機能

チャンネルスコープとは、表示中の周波数を受信しながら、その周辺のチャンネルの受信状況をレベル表示する機能です。VFO ／メモリーモードで使用でき、複数のチャンネル使用状況が一目でわかります。

通常時

表示周波数の受信信号レベルを横方向に表示します。

チャンネルスコープ時

センターチャンネル（表示周波数）（▼点灯）を中心に、11 波の受信信号レベルを縦方向に表示します。

●チャンネルスコープのしくみ

- センターチャンネルに信号がなければ、11波を自動的にスキャンしてスコープ表示を更新し続けます。
- センターチャンネルに信号があるときは、スキャンタイプ設定（☞P90）にしたがって受信します。
- タイマースキャン設定時は、センターチャンネル受信中も周辺チャンネルの表示を設定にあわせたタイミングで更新するため、センターチャンネルの受信音が一瞬途切れます。ビジースキャン設定時は、センターチャンネルが受信中であれば周辺チャンネルは表示が変化しません。

- 時間指定スキャン設定時は、センターチャンネルの信号の有無に関わらず一定時間ごとにスコープ表示を更新します。
  更新中は受信音が一瞬途切れます。

●トーンスケルチ、DCS設定時のチャンネルスコープ動作について（通常モード時のセンターチャンネルの受信）

トーンスケルチまたはDCSが設定されているときは、信号があるとセンターチャンネルで停止し、トーンが一致すると受信音が聞こえます。

●チャンネルスコープの種類

（1）開始時のモードにより、VFOチャンネルスコープとメモリーチャンネルスコープがあります。

（2）デュアルバンドとモノバンド
メインバンド側でモノバンド運用したときは、スキャンの設定に関係なく、受信音は途切れません。

8-6-1 VFOチャンネルスコープ

センターチャンネルを中心にして、チャンネルステップごとに受信信号レベルを表示します。

1 VFOモードでスコープを表示するバンドに合わせます。

2 FUNCキーを押してディスプレイにFを点灯させせます。

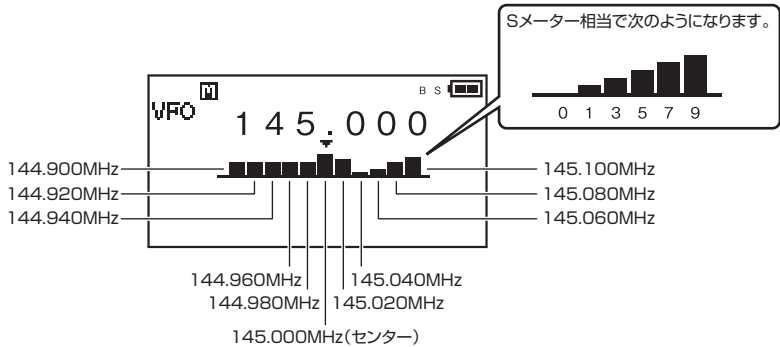
3 SCOPE 6MNOキーを押します。

VFOチャンネルスコープが表示されます。

4 ダイヤルを回してセンターチャンネルを選択します。

センターチャンネルが1チャンネルずつステップごとに上下します。それにしたがって、スコープ表示が左右に1つずつずれます。

●VFOスコープ表示のみかた

（例）メインバンド チャンネルステップが20kHzのとき

8-6-2 メモリーチャンネルスコープ

表示メモリーの周波数を中心にして、隣り合った登録メモリーの周波数の受信レベルを表示します。

- 空きメモリーは、チャンネルスコープの対象外です。
- スコープ対象メモリーが1チャンネルもないときは、チャンネルスコープがスタートしません。

1 メモリーモードでスコープを表示させたいバンクを選択します。

2 FUNCキーを押してディスプレイにFを点灯させます。

3 SCOPE 6MNOキーを押します。

メモリーチャンネルスコープが始まります。表示メモリー（センターチャンネル）を受信しながら、周辺の登録メモリーの受信レベルをスコープ表示します。

4 ダイヤルを回してセンターチャンネルを選択します。

センターチャンネルが上下して、次のスコープ対象のメモリーに移ります。それにしたがってスコープの表示が左右に1つずつずれます。

参 考

- チャンネルスコープ中でも［PTT］キーを押すと送信できます。
  送信中はチャンネルスコープが一時中断します。スコープ表示部に送信出力を横方向に表示します。送信を終了するとチャンネルスコープが再開します。
- FUNCキーを押してFを点灯させ、MODE 4GHIキーを押すと、センターチャンネルの受信動作を次のように変更できます。
  通常モード：センターチャンネルで受信すると音を出し、受信時間は「スキャンタイプ設定（☞P90）」に従います。チャンネルスコープ開始時は、毎回通常モードになります。
  表示モード：センターチャンネルも他のチャンネルと同じようにレベル表示のみおこない、信号を受信しても音は出しません。
- MAIN A、SUB Bキーにより、操作バンドが切り替わります。チャンネルスコープを動作させたまま操作バンドが移動するので、デュアル運用時、両バンドで同時チャンネルスコープがおこなえます。

8-7 チャンネルステップの変更

チャンネルステップとは総務省によって無線通信やラジオ、テレビ放送などに割り当てられた周波数と周波数の間隔を言います。
チャンネルステップの初期設定値は変更できます。
設定変更できるチャンネルステップの単位は次の通りです。

●選択できるチャンネルステップ

オート※、5kHz、6.25kHz、8.33kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、125kHz、150kHz、200kHz、500kHz、1MHz
※メインバンドでは「オート」は選択できません。

●サブバンドの切り替え

SUB(B)キーを押すと、次の13のバンドから順に選択できます。

初期値	周波数範囲	受信モード
1.620	(0.531 ～ 1.620) MHz ※	AM
51.000	(1.625 ～ 75.995) MHz	AM/FM
76.000	(76.000 ～ 107.750) MHz	WFM
118.000	(108.000 ～ 143.990) MHz	AM/FM
145.000	(144.000 ～ 145.980) MHz	FM
156.000	(146.000 ～ 173.990) MHz	FM
175.750	(175.750 ～ 221.750) MHz	WFM
422.200	(221.800 ～ 429.9875) MHz	AM/FM
433.000	(430.000 ～ 439.980) MHz	FM
445.000	(440.000 ～ 475.7375) MHz	FM
475.750	(470.000 ～ 769.750) MHz	WFM
770.000	(770.000 ～ 1259.950) MHz	FM/WFM
1295.000	(1260.000 ～ 1299.980) MHz	FM

※チャンネルステップ9kHzのみで変更できません。

サブバンドの初期設定は「オート」です。通常は「オート」設定を変更する必要はありませんが、自動で合わない周波数を受信する際に変更してください。

1 チャンネルステップを変更したいバンドにあわせます。

8

2 FUNC キーを押してディスプレイにFを点灯させます。

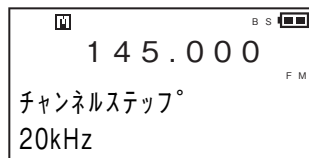
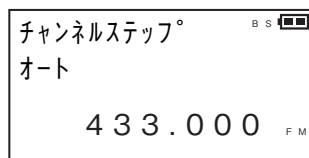
3 STEP 7PQRS キーを押すと「チャンネルステップ」が表示されます。
ディスプレイに右のように表示されます。

4 ダイヤル（上）を回してチャンネルステップを選択します。サブバンドのときは STEP 7PQRS キーを押して「オート」から各チャンネルステップを選択します。

メインバンドの場合

M　BS
145.000 FM
ﾁｬﾝﾈﾙｽﾃｯﾌﾟ
20kHz

サブバンドの場合

ﾁｬﾝﾈﾙｽﾃｯﾌﾟ BS
ｵｰﾄ
433.000 FM

8-8 マイクゲイン設定

送信時のマイクゲインを4段階で調整できます。オペレーターの声量や口元とマイクの距離の取りかたにあわせてマイクゲインを微調整できます。

1 FUNC キーを押してディスプレイにFを点灯させます。

2 MIC-G 8TUV キーを押すと「マイクゲイン」が表示されます。

3 ダイヤル（上）を回してとマイクゲインを調整します。
マイクゲインは1（小）←→4（大）で調整できます。

8-9 コールチャンネル呼び出し

あらかじめ登録しておいたコールチャンネルを呼び出すことができます。どの運用モードからでも設定できます。

1 FUNC キーを押してディスプレイにFを点灯させます。

2 CALL 9WXYZ キーを押しながらダイヤル（上）を回してコールチャンネルを選択します。
CALL 9WXYZ キーを離すとコールチャンネルに移動します。

• コールチャンネル呼び出しはメインバンドのみ有効です。

8-10 プライオリティ機能

2つのチャンネルを交互に待ち受けて、受信の効率をよくする機能です。VFOモードで受信中のチャンネルを5秒受信するごとに（※1）選択したプライオリティチャンネルを0.5秒受信し、信号の有無をチェックします。よく聞くチャンネルをメインチャンネルに、調べたいチャンネルをプライオリティにして使うと便利です。
メインバンド、サブバンド個別に動作させることができます。

1 FUNCキーを押してディスプレイにFを点灯させせます。

2 PRIO 0キーを押したままダイヤル(上)を回してプライオリティチャンネルを選択します。

3 PRIO 0キーを離すとプライオリティ機能が動作します。
プライオリティチャンネルを受信したときはビープ音がなります。その信号がなくなるまで受信し続けます。（※2）

4 ［PTT］、FUNC、MW C V/P/M、M→V D SCANキーのいずれかを押すとプライオリティ機能が停止します。

- プライオリティチャンネルにメモリーが1つも登録されていないときは、プライオリティ機能は動作しません。
- プライオリティ機能が動作しているときは、スキャンできません。
- 5秒（※1）に一度、プライオリティチャンネルを受信するため、この間隔で「プツプツ」とメインチャンネルの音声が途切れて聞こえます。特に放送など、常に電波が出ている信号では起こりやすくなりますが、故障ではありません。

※1 プライオリティチャンネル側を受信しにいく間隔はセットモードの「プライオリティ待ち受け時間設定（☞P91）」で変更できます。
※2 プライオリティチャンネル側で受信したときの停止時間はセットモードの「プライオリティ停止時間設定（☞P91）」で変更できます。

8-11 メモリーチャンネルをVFOモードにコピーする

メモリーチャンネルの周波数をVFOモードにコピーします。メモリーチャンネルから少し周波数をずらしてQSOしたいときや、メモリーチャンネルを編集するときに使うと便利です。

1 メモリーモードで、VFOモードにコピーしたいメモリーチャンネルを選択します。

2 FUNCキーを押してディスプレイにFを点灯させます。

3 M→V D SCANキーを押すとメモリーチャンネルの周波数をVFOモードにコピーします。

コピー後は、VFOモードに切り替わります。

8-12 RIT/TXIT機能

RIT機能は相手局の送信周波数がずれているときに、自局の受信周波数だけを微調整する機能で、TXIT機能は自局の送信周波数を微調整して、相手局の受信状態に合わせる機能です。これらの機能はMAIN側1200MHz帯で動作します。

●RIT/TXIT機能設定

1 FUNCキーを押して、ディスプレイにFを点灯させます。

2 #RPT ENTキーを押すごとにRIT機能とTXIT機能が切り替わります。使用する機能を選択します。

3 RIT機能を使用する場合は、ダイヤル(上)を回して、もっとも明瞭に受信できるところに合わせます。
TXIT機能を使用する場合は、ダイヤル(右上)を回して、適切なところに合わせて送信し確認します。

4 1 ～ 2の操作を繰り返して、「OFF」を選択する、または電源を切るとRIT/TXIT機能が解除されます。

可変範囲は約±1.8kHz(1ステップ/約600Hz)となっています。

-3 ⟷ -2 ⟷ -1 ⟷ OFF ⟷ +1 ⟷ +2 ⟷ +3

参 考

- TXIT機能をオンにしたまま別の局とQSOすると、Fズレと誤解されますのでご注意ください。RIT/TXITの値をメモリーすることはできません。

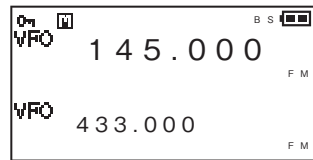
9. 便利な機能

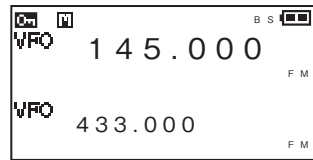
9-1 キーロック機能

使用時や携帯時に誤ってキーやダイヤルが操作されることを防ぐ機能です。
手軽にロックするクイック・ロックと、解除しにくいノーマル・ロックの2つの方法があります。

9-1-1 キーロックの方法

●クイック・ロック

FUNCキーを長く押して、キーロックのON/OFFを切り替えます。
キーロック時は、ディスプレイにマークが点灯します。

●ノーマル・ロック

SUBキーを押しながら左ダイヤルを3回押して、キーロックのON/OFFを切り替えます。
キーロック時は、ディスプレイにマークが点灯します。

- キーロックの解除はキーロックをかけたときと同じ方法を繰り返してください。同じ方法でないと解除できません。
- SUBキーを押したまま一度もダイヤルを回さずに約1秒経過すると、モノバンドはデュアルバンドに、デュアルバンドはモノバンドに切り替わります。

9-1-2 キーロック時にできる操作

音量調整：下側のダイヤルを回すと調整ができます。
スケルチの調整：ダイヤルを押して回すと調整ができます。
キーロック中に操作できるキーの設定は「キーロックモード設定(☞P96)」をご参照ください。

9-2 スキャン機能

自動的に周波数を切り替えて受信をおこない、出ている信号を探し出す機能です。スキャン機能には次の種類があります。

VFO スキャン	VFO モードで、バンド内の全周波数をあらかじめ設定したチャンネルステップでスキャンします。
プリセットスキャン	プリセットモードのバンド内の周波数をスキャンします。
メモリースキャン	メモリーモードで、メモリーに登録した周波数だけをスキャンします。
プログラムスキャン	スキャンする範囲の上限と下限を設定してその範囲内をスキャンします。

●スキャン中の共通操作

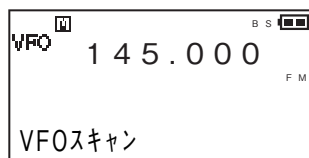
- ［PTT］/ FUNC / V/P/M / SCAN キーのいずれかを押すとスキャンが止まります。
- スキャン中にダイヤルを回すとスキャン方向を変更できます。
- スキャン中にモニター機能を動作させると、その間はスキャンが一時停止します。モニター機能を解除するとスキャンを再開します。
- スキャンの開始方向は、最後にスキャンした方向によって決まります。（但し、プログラムスキャンの場合は、登録した○○Aから○○Bへ向かってスキャンを開始します。）
- スキャンを再開する条件を設定することができます。設定方法は「スキャンタイプ設定（☞P90）」をお読みください。

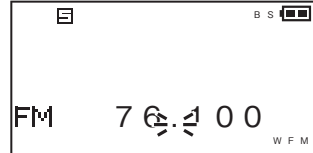
9-3 VFOスキャン

1 **V/P/M キーを押してVFOモードにします。**

2 **SCAN キーを押したままダイヤル（上）を回して「VFOスキャン」を選択します。**

3 **SCAN キーを離すとスキャンを開始します。**
スキャン中は周波数表示のドットが点滅します。

4 **［PTT］、FUNC、V/P/M、SCAN キーのいずれかを押すとスキャンを停止します。**

9-4 プリセットスキャン

1. [MW C V/P/M]キーを押してプリセットモードにします。
2. [B SUB]または[A MAIN]キーを押してバンドを選択します。
3. [M→V D SCAN]キーを押すとスキャンを開始します。
   スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。

- メインバンドは「運用周波数限定機能(☞P87)」により、レピーター周波数帯のプリセットモードが追加できます。

9-5 メモリースキャン

メモリーモード時に、特定のバンクまたは、すべてのバンクをスキャンします。
メモリースキャンには次の3種類があります。

単バンクスキャン	選んだ 1 つのバンクのみをスキャンします。
グループスキャン	前もって組み合わせたバンクをスキャンします。
全バンクスキャン	バンク 0 ～ 9 の全バンクがスキャンの対象になります。

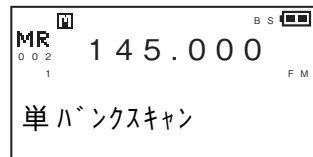
参 考

- 通常メモリーチャンネル用以外のバンクはスキャンできません。
- オプションのソフトウェアの操作でバンクの拡張を行うと、バンク0～49までの間で全バンクスキャンが可能になります。

1. [MW C V/P/M]キーを押してメモリーモードにします。
2. [M→V D SCAN]キーを押したままダイヤル(上)を回してスキャンの種類を選択します。
   メモリースキャンの種類は次のとおりです。
   - 単バンクスキャン
   - グループスキャン
   - 全バンクスキャン

   単バンクスキャンを選択すると現在のバンクをスキャンします。

   MR 002 1 145.000 FM
   単ﾊﾞﾝｸｽｷｬﾝ
3. [M→V D SCAN]キーを離すとスキャンを開始します。
   スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。
4. [PTT]、[FUNC]、[MW C V/P/M]、[M→V D SCAN]キーのいずれかを押すとスキャンを停止します。

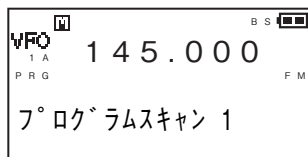
9

9-6 プログラムスキャン

スキャンする範囲の上限と下限を設定してその範囲内をスキャンします。設定した上限の周波数と下限の周波数をプログラムチャンネルと呼びます。本機は50組のプログラムチャンネルを登録できます。「メモリーチャンネルの登録（☞P36）」をお読みください。あらかじめプログラムスキャン用バンクにデータを登録しておかないと、次の操作はできません。

1 [MW C / V/P/M]キーを押してVFOモードにします。

2 [M→V D / SCAN]キーを押したままダイヤル（上）を回して「プログラムスキャン」を選択します。

VFO 1A PRG 145.000 BS FM
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑｽｷｬﾝ 1

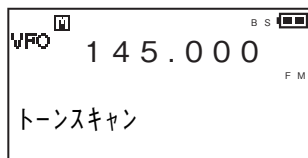
3 [M→V D / SCAN]キーを離すとスキャンを開始します。

スキャン中は周波数表示のドットが点滅します。

4 [PTT]、[FUNC]、[MW C / V/P/M]、[M→V D / SCAN]キーのいずれかを押すとスキャンを停止します。

9-7 トーンスキャン

受信電波に含まれるトーン周波数を自動的に判別する機能です。

1 VFOモードでトーン周波数を調べたいチャンネルに合わせます。

2 [M→V D / SCAN]キーを押したままダイヤル（上）を回して「トーンスキャン」を選択します。

3 [M→V D / SCAN]キーを離すとスキャンを開始します。

スキャンを開始し、ディスプレイにトーン周波数が順に表示されます。トーンが発見されるとビープ音が鳴ってディスプレイにTSQとトーン周波数が表示され、スキャンを停止します。トーン周波数が受信電波に含まれないときは、いつまでもスキャンし続けます。

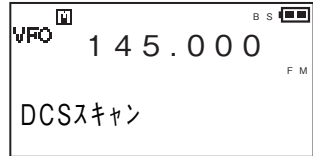
4 [PTT]、[FUNC]、[MW C / V/P/M]、[M→V D / SCAN]キーのいずれかを押すとスキャンを停止します。

9-8 DCSスキャン

受信電波に含まれるDCSコードを自動的に判別する機能です。

1 VFOモードでDCSコードを調べたいチャンネルに合わせます。

2 [M→V D SCAN]キーを押したままダイヤル（上）を回して「DCSスキャン」を選択します。

VFO M 145.000 BS FM
DCSｽｷｬﾝ

3 [M→V D SCAN]キーを離すとスキャンを開始します。

スキャンを開始し、ディスプレイにDCSコードが順に表示されます。DCSコードが発見されるとビープ音が鳴ってディスプレイに DCS とDCSコードが表示されスキャンを停止します。DCSコードが受信電波に含まれないときは、いつまでもスキャンし続けます。

4 ［PTT］、[FUNC]、[MW C V/P/M]、[M→V D SCAN]キーのいずれかを押すとスキャンを停止します。

9-9 スイープスキャン

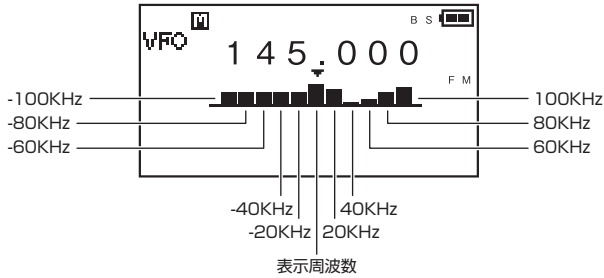
スイープスキャンとは、チャンネルスコープ動作中にスキャン動作をしながら受信レベルを表示していく機能です。次のチャンネルに移っても、前のチャンネルの受信レベルが表示に残ります。スキャンと同様に、バンド、プログラム、メモリーの3種類のスイープスキャンがあります。

1 チャンネルスコープ動作中に[M→V D SCAN]キーを押します。

スイープスキャンが始まります。チャンネルステップ単位でスイープスキャンします。スイープスキャン中は、デシマルポイントが点滅し、表示周波数で信号受信すると、スキャン再開条件にしたがって受信します。

2 ［PTT］、[FUNC]、[MW C V/P/M]、[M→V D SCAN]キーを押すとチャンネルスコープに戻ります。

●スイープスキャンレベルのみかた

（例）UP方向スイープスキャン（チャンネルステップが20kHzのとき）

スイープスキャン中は周波数を1ステップずつ右から新しくレベルを表示し、左へ順に移動していきます。DOWN時は逆に表示していきます。スキャン中の▼は移動しません。

9-10 発信器探索機能

特定の発信器の信号を受信し、その信号の強さで発信器までの距離を相対的に推測して探索する機能です。その発信器の信号を強く受信するほどビープ音が、短い間隔で鳴ります（Sメーターの大きさに応じた音が鳴ります)。フォックスハンティングなどにお使いください。

- この機能はメモリーモードと連動します。この機能を使用するには、先にメモリーモードで発信器探索機能用メモリーチャンネルの登録をする必要があります。(「メモリーチャンネルの登録（☞P36)」)

1 **[V/P/M]キーを押してメモリーモードに切り替えます。**

2 **[MAIN]または[SUB]キーを押して登録済みの発信器探索機能用メモリー（TSF）チャンネルを選択すると発信器探索機能が動作します。**

発信器探索機能が設定されます（受信ランプは点灯しません)。

この機能を設定中は、受信音は聞こえません。
この機能が設定されると、自動的に探索音が鳴り始めます。ただし、トーンスケルチおよびDCS設定時は、周波数・コードが一致したときのみ探索音が鳴ります。

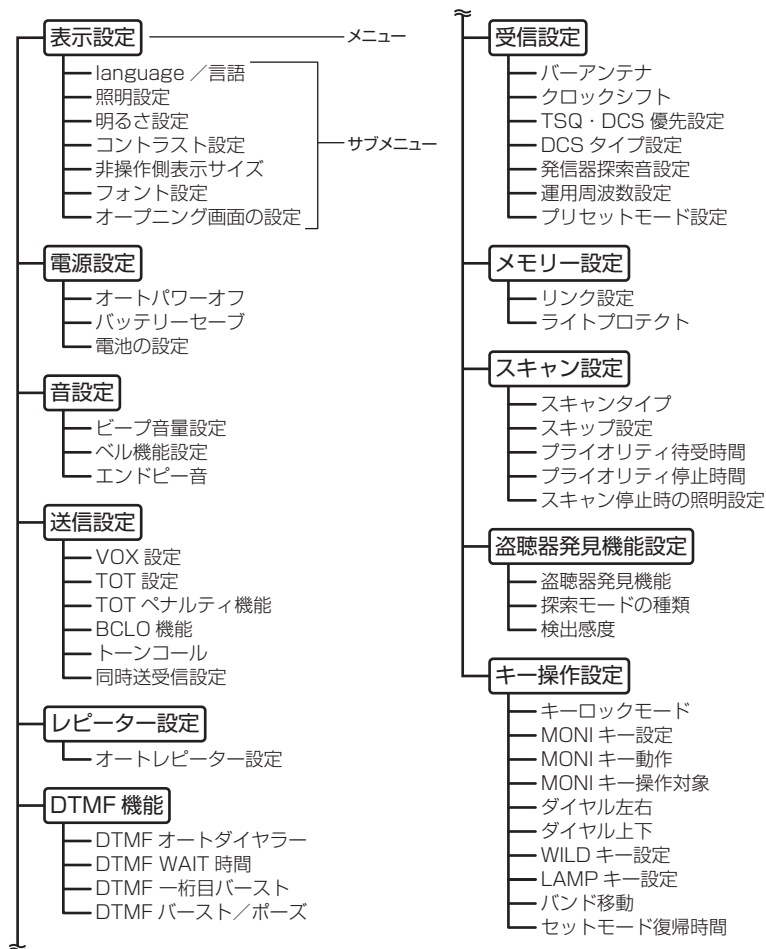
- 発信器が近い場合や発信器の信号が強い場合は、ATT（アッテネーター）機能をONにしてお使いください。
- ［MONI］キーを押すことで受信音を聞くことができます（このとき、受信ランプが点灯します)。発信器にマイクが装着されているときに、［MONI］キーを押すことで発信器側の周囲の音を聞くことができます。
- デュアルバンドで使用する場合は「発信器探索音設定（☞P86）」をご参照ください。
- 発信器探索機能は、通常のスケルチ機能とは無関係に動作します。
- 市販の指向性アンテナを接続すると、方角を推測することが容易になります。

9

10. セットモード

各種機能を用途にあわせて変更することで本機をより使いやすくすることができます。
セットモードでは、次の項目をカスタマイズできます。
項目の目次を「メニュー」、その下にある設定項目を「サブメニュー」と呼びます。

●セットモードの設定方法

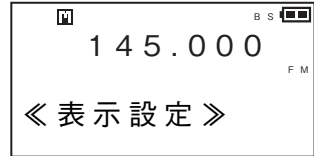
1 FUNC キーを押してディスプレイに F を点灯させせます。

2 ダイヤルを押すとセットモードになります。

3 ダイヤル(上)を回して、セットモードのメニューを選択します。

4 ダイヤルを押すと、サブメニューが表示されます。

5 ダイヤル(上)を回してサブメニューを選択し、ダイヤル(下)を回して設定を変更します。

6 [MONI]キーを押すとセットモードのメニュー選択画面に戻ります。

7 [PTT]キーを押すと確定してセットモードを終了できます。

10-1 表示設定

この項目はディスプレイ表示や照明の設定をおこないます。

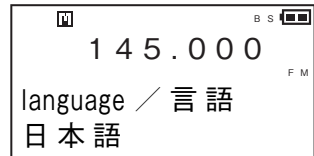
1 セットモードのメニューから≪表示設定≫を選択します。

2 ダイヤルを押すと、表示設定のサブメニューに入ります。

10-1-1 言語設定

言語表示を日本語または英語で表示します。

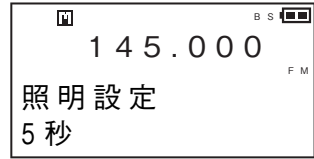
1 ダイヤル(上)を回して「language／言語」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル(下)を回して「日本語」←→「English」を選択します。

10-1-2 照明設定

ディスプレイとキーの照明のON/OFFの設定と照明の時間を設定できます。初期値は5秒です。

1 ダイヤル(上)を回して「照明設定」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

M　BS
145.000
FM
照明設定
5秒

2 ダイヤル(下)を回して照明時間を選択します。

ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

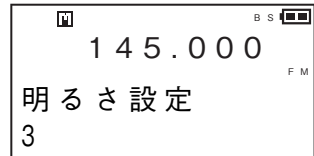
→常灯↔全て消灯↔消灯↔5秒↔10秒↔15秒↔20秒↔25秒↔30秒←

常灯	照明が常時点灯します。
全て消灯	照明と TX/RX ランプが消灯します。
消灯	照明が消灯します。
5 秒～ 30 秒	操作すると一定時間照明が点灯します。

10-1-3 明るさ設定

ディスプレイとキーの照明の明るさを5段階で設定できます。
初期値は3です。

1 ダイヤル(上)を回して「明るさ設定」を選択します。

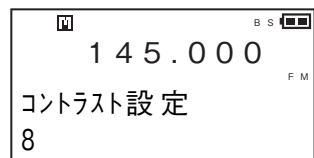
ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル(下)を回して1 ～ 5の範囲で明るさを選択します。

M　BS
145.000
FM
明るさ設定
3

10-1-4 コントラスト設定

ディスプレイの色の濃さを調節できます。初期値は8です。

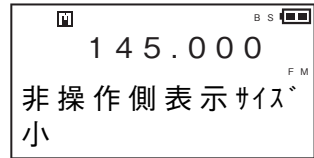
1 ダイヤル(上)を回して「コントラスト設定」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル(下)を回して1 ～ 10までの範囲で画面の濃さを選択します。

10-1-5 非操作側表示サイズ

デュアル表示で操作をしていないほうのバンドの表示サイズを切り替えます。

1 ダイヤル（上）を回して「非操作側表示サイズ」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

M　BS
145.000
FM
非操作側表示ｻｲｽﾞ
小

2 ダイヤル（下）を回して「小」←→「大」を選択します。

10-1-6 フォント設定

好みに応じて数字フォントを切り替えます。

1 上側のダイヤルを回して「フォント設定」を選択します。

2 下側のダイヤルを回して数字フォントを選択します。
ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

→太字←→操作バンド太字←→操作バンド細字←→細字←

太字	すべて太字にします。
操作バンド太字	操作バンドの文字を太く、非操作バンドの文字を細くします。
操作バンド細字	操作バンドの文字を細く、非操作バンドの文字を太くします。
細字	すべて細字にします。

10-1-7 オープニング画面の設定

お好みの文字をオープニング画面に表示できます。

1 上側のダイヤルを回して「オープニング」を選択します。

2 ダイヤル（上）を押すと編集画面に入ります。

3 ダイヤル（左下）を回して、オープニング文字のスライドまたは静止を選択します。

4 ダイヤル(右下)を回すと文字入力のカーソルを移動できます。

5 文字入力方法はメモリーネームの入力方法（☞P44）の手順4以降をご参照ください。
文字入力をしていない場合は、通常のオープニング画面になります。

10-2 電源設定

この項目では電源関連の設定をおこないます。

1 セットモードのメニューから≪電源設定≫を選択します。

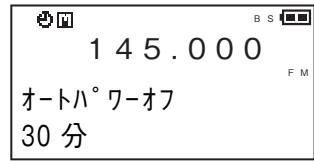
2 ダイヤルを押すと、電源設定のサブメニューに入ります。

10-2-1 APO機能

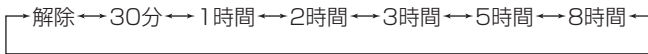
APOは自動電源オフ（Auto Power Off）の略です。設定した時間、無操作状態が続くとビープ音が鳴り自動的に電源が切れます。

1 ダイヤル（上）を回して「オートパワーオフ」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

BS
145.000
FM
ｵｰﾄﾊﾟﾜｰｵﾌ
30 分

2 ダイヤル（下）を回して自動で電源がオフになる時間を選択します。

ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

解除 ←→ 30分 ←→ 1時間 ←→ 2時間 ←→ 3時間 ←→ 5時間 ←→ 8時間（→解除に戻る）

電源が切れたとき再び電源を入れるには、もう一度電源スイッチを押してください。

参考

- 信号を受信しているだけではAPO時間は延長されませんが、キー操作をおこなうと、カウントがリセットされ、改めてタイマーが動作します。

10-2-2 バッテリーセーブ（BS）機能

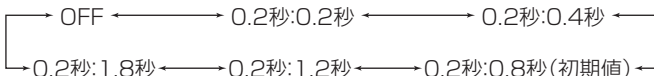
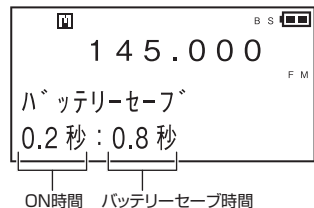
本機内部で電源を短い間隔でON/OFFさせることで、待機中の消費電流を抑え、バッテリーを長持ちさせる機能です。

1 ダイヤル（上）を回して「バッテリーセーブ」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル（下）を回してON時間とバッテリーセーブ時間を選択します。

ONにするとディスプレイに**BS**が点灯します。
ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

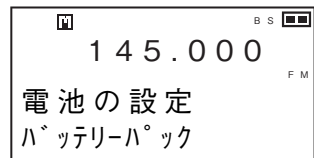
OFF ←→ 0.2秒:0.2秒 ←→ 0.2秒:0.4秒 ←→ 0.2秒:0.8秒（初期値） ←→ 0.2秒:1.2秒 ←→ 0.2秒:1.8秒（→OFFに戻る）

- 工場出荷時は0.2秒：0.8秒に設定されています。通常はOFFにする必要はありませんが、アマチュア無線のパケット通信や、航空無線でACARSのようなデータ通信を受信するときはOFFにしてください。
- 信号受信中やスキャン中にはバッテリーセーブ機能は働きません。
- バッテリーセーブ時間を長くすると、信号を受信したときに音声の初めが途切れることがあります。

10-2-3 電池の設定

正確なバッテリーレベルアイコンを表示させるため、この設定をおこないます。

1 ダイヤル(上)を回して「電池の設定」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

M BS
145.000
FM
電池の設定
ﾊﾞｯﾃﾘｰﾊﾟｯｸ

2 ダイヤル(下)を回して「バッテリーパック」←→「乾電池」を選択します。

注意

- この設定が間違っているとバッテリーレベル(残量)が正しく表示されませんが、実用上の問題はありません。

10

10-3 音設定

この項目では音に関する設定をおこないます。

1 セットモードのメニューから≪音設定≫を選択します。

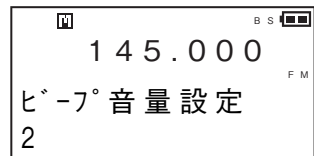
2 ダイヤルを押して、音設定のサブメニューに入ります。

10-3-1 ビープ音量設定

キー操作をおこなったときに鳴る音をビープ音と呼びます。ここでは、ビープ音の音量を設定します。初期値は2です。

1 ダイヤル(上)を回して「ビープ音量設定」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

M BS
145.000
FM
ﾋﾞｰﾌﾟ音量設定
2

2 ダイヤル(下)を回して「OFF」←→「1」〜「4」の範囲で音量を選択します。

OFFにするとビープ音が鳴りません。

注意

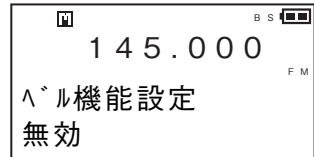
- ビープ音量設定を変更するとエンドピー音(☞次項)の音量も合わせて変更されます。ただし、ビープ音量設定が「OFF」のときは「1」レベルの音量でエンドピー音が鳴ります。

10-3-2 ベル機能

信号を受信すると、ベルの音でお知らせする機能です。

1 ダイヤル(上)を回して「ベル機能設定」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

```
M                BS
   145.000
                 FM
ﾍﾞﾙ機能設定
無効
```

2 ダイヤル(下)を回して無効、メイン受信時、サブ受信時、どちらか受信時から選択します。

ベル機能を設定するとディスプレイに♪が点灯します。

信号を受信すると♪が点滅しベル音がなります。次に操作をおこなうまで♪が点滅しているので、不在のときに信号を受信したことがわかる「着信確認」としても使えます。

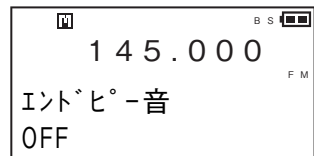
無効	ベルは鳴りません。
メイン受信時	メインバンドで信号を受信すると鳴ります。
サブ受信時	サブバンドで信号を受信すると鳴ります。
どちらか受信時	両バンドのどちらか先に受信すると鳴ります。

10-3-3 エンドピー音設定

送信終了時に「ピッ」と短いビープ音をならして送信の終わりをわかりやすく伝える機能です。

1 ダイヤル(上)を回して「エンドピー音」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

```
M                BS
   145.000
                 FM
ｴﾝﾄﾞﾋﾟｰ音
OFF
```

2 ダイヤル(下)を回して「OFF」←→「ON」を選択します。

10-4 送信設定

この項目では本機の送信関連の動作設定をおこないます。

1 セットモードのメニューから≪送信設定≫を選択します。

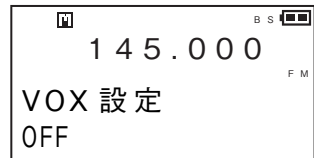
2 ダイヤルを押すと、送信設定サブメニューに入ります。

10-4-1 VOX設定

マイクに音声が入れば送信、音声がなくなれば受信に自動的に切り替わり、ハンズフリーでの交信が可能になります。

1 ダイヤル（上）を回して「VOX設定」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

M　BS
145.000
FM
VOX 設定
OFF

2 ダイヤル（下）を回してVOX設定内容を選択します。

→OFF←→内蔵マイク←→外部マイク←

●VOX感度を設定する

VOX感度レベルを調整します。初期値は3です。

1 VOX機能が動作中にダイヤルを2回押します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル（上）を回して、どのくらいの声量で送信になるのかを調整します。

VOX感度は1（低）←→7（高）で設定できます。VOX感度を0にするとVOX機能を停止できます。

- 感度を上げすぎると小さな声や回りの音でも送信してしまうことがあります。
- VOX機能を設定しているときは、本体の［PTT］キーを押しても送信できません。
- 感度調整をおこなっても、周囲の声が大きいところでは誤って送信してしまうことがあります。
- VOX機能を設定しているときは、トーンコール、DTMF、オートダイヤラーを送信できません。
- VOX機能動作中は、サブバンドの受信を停止します。

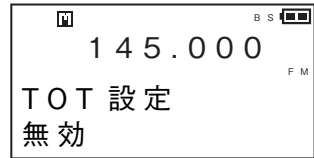
10-4-2 タイム・アウト・タイマー（TOT）機能

送信が連続して一定時間以上続いたとき、自動的に送信を停止させる機能です。初期値は無効です。

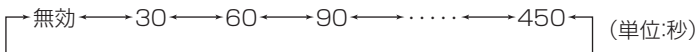
●TOTの設定

1 ダイヤル（上）を回して「TOT設定」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

```
M                 BS
   145.000
                  FM
TOT 設定
無効
```

2 ダイヤル（下）を回して、「無効」←→「30秒」～「450秒」の範囲で、30秒ごとにTOTを選択します。

ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

無効←→30←→60←→90←→・・・・・←→450 （単位:秒）

TOTの動作について

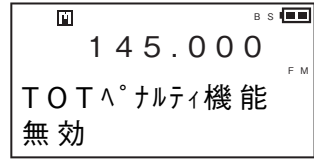
- 連続送信時間が設定された時間を超過する直前にビープ音が鳴り、本機は自動的に受信状態になります。このとき、再度［PTT］キーを押さないと次の送信はできません。
- TOTペナルティ時間が設定されているときには、設定された時間内に再度PTTキーを押しても送信できません。TOTペナルティ時間の設定については、「タイム・アウト・タイマー（TOT）ペナルティ機能（☞P77）」をご参照ください。

10-4-3 タイム・アウト・タイマー（TOT）ペナルティ機能

送信がTOT機能で強制的に終了した場合に、その後一定時間送信を禁止するTOTペナルティ時間を設定する機能です。初期値は無効です。

1 ダイヤル（上）を回して「TOTペナルティ機能」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

145.000
TOTﾍﾟﾅﾙﾃｨ機能
無効

2 ダイヤル（下）を回して、「無効」←→「1秒」～「15秒」の範囲でTOTペナルティ時間を選択します。

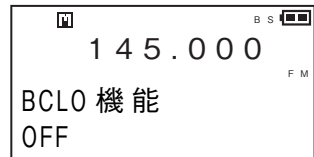
TOTペナルティ時間中は送信が禁止されます。

TOTペナルティ時間中にPTTキーを押すと警告音が鳴ります。TOT設定時に自動的に送信が停止した後、設定されたTOTペナルティ時間内に送信を停止する機能です。

10-4-4 ビジーチャンネルロックアウト（BCLO）機能

送信動作を制限するメインバンドのみの機能です。自局からの送信で他局のQSOを妨害することを防ぎます。

1 ダイヤル（上）を回して「BCLO機能」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル（下）を回して「ON」←→「OFF」を選択します。

ビジーチャンネルロックアウト機能がONに設定されていると、次の①②③の場合のみ送信が可能になり、それ以外の条件では送信することができません。

送信が禁止されている状態でPTTキーを押すとアラーム音が鳴ります。

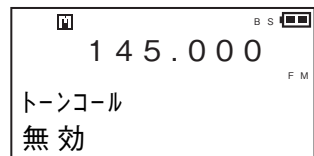
①信号が入感していない場合。（BUSYが消灯している状態）

②トーンスケルチ設定状態でトーンが一致してスケルチが開いた場合。

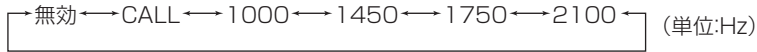
③DCS設定状態でコードが一致してスケルチが開いた場合。

10-4-5 トーンコールの設定

1 ダイヤル（上）を回して「トーンコール」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル（下）を回してトーンコール周波数を選択します。

ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

無効 ⟷ CALL ⟷ 1000 ⟷ 1450 ⟷ 1750 ⟷ 2100 （単位:Hz）

参考

- 主にヨーロッパのアマチュア・レピーターで使われ、アクセス前にバーストするコール音の設定です。日本国内においてトーンバースト式のレピーターは一般的ではありません。

10-4-6 同時送受信設定

同時送受信が可能な時に、送信中に受信側の動作を禁止できます。

1 ダイヤル（上）を回して「同時送受信設定」を選択します。

2 ダイヤル（下）を回して「許可」⟷「禁止」を選択します。

参考

- イヤホンなどのアクセサリーを使わずに同時送受信を行うと、スピーカーから出た受信音がマイクに回り込んでハウリングを起こします。そのような場合は「禁止」に設定してください。

10-5 レピーター設定

この項目では本機のレピーターアクセス設定をおこないます。

1 セットモードのメニューから≪レピーター設定≫を選択します。

2 ダイヤルを押すと、レピーター設定のサブメニューに入ります。

●シフト方向とオフセット周波数

通常、レピーターは、ある周波数で受信した信号を別の周波数で再送信します。この二つの周波数の差がオフセット周波数です。オフセット周波数の設定範囲は0 ～ 999.995MHzまでです。

[PTT]キーを押したとき、送信周波数を受信周波数に対して上か下かにずらすことをシフト、その方向をシフト方向と呼びます。

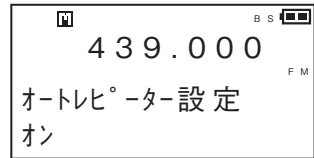
10-5-1 オートレピーター設定

レピーターアクセスの設定を自動でおこなうかどうかを設定できます。

- オートレピーター　：レピーターが運用されている周波数帯に入ると自動的にアクセスに必要な設定になります。

1 ダイヤル（上）を回して「レピーター設定」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

M　BS
439.000
FM
オートレピーター設定
オン

2 ダイヤル（下）を回してオートレピーター設定の「オン」←→「オフ」を選択します。を選択します。

注意

- オートレピーター設定を解除して運用する場合、レピーターバンドでシンプレックス運用をしないよう、バンドプランにご注意ください。

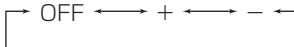
10-5-2 シフト設定

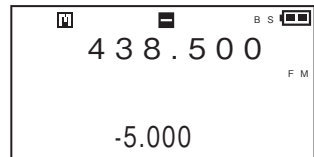
シフト方向とシフト周波数を任意に設定するときはセットモードではなく、通常のキー操作を行います。オートレピーターの設定が「オン」になっているとき、オートレピーターが動作する周波数では次のシフト設定、およびCTCSSトーンの設定ができません。

1 [FUNC]キーを押して、ディスプレイに[F]を点灯させます。

2 [MAIN]キーを押すとシフト方向とシフト周波数が表示されます。

[MAIN]キーを押すごとにシフト方向の設定ができます。

→ OFF ←→ + ←→ − ←

3 ダイヤル（上）を回すと、シフト周波数の変更ができます。

[FUNC]キーを押しながら、ダイヤル（上）を回すと、1MHzずつ増減します。

参考

- ［PTT］キーを押すと「送信できません」と表示されてアラーム音が鳴るときは、オフセット周波数が本機の送信周波数範囲をこえる数値に設定されています。送信することはできません。

10

- オートレピーターの設定が「オン」になっているとき、オートレピーターが動作する周波数ではシフト設定およびトーン設定はできません。
- 日本のアマチュアレピーターの基本バンドプランは、430MHz帯ではマイナスシフトの5MHzオフセットです。1200MHz帯ではマイナスシフト20MHzオフセットです。
- オフセット周波数が本機の送信周波数範囲をこえる数値に設定されると、[PTT]キーを押したときに「送信できません」と表示されアラーム音が鳴ります。この状態では送信することはできません。

10-6 DTMF機能

この項目では、DTMFトーン（プッシュ式電話のピポパ音と同じもの）の送信に関する設定をおこないます。インターネット回線を経由した中継通信のアクセスなどに使われています。

1 セットモードのメニューから≪DTMF機能≫を選択します。

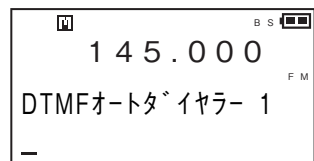
2 ダイヤルを押すと、DTMF機能のサブメニューに入ります。

10-6-1 オートダイヤラー設定

DTMFコードをメモリーに登録・送出・リダイヤルなどをする項目です。DTMFコードは1件あたり最大16桁まで入力でき、9件のコードを登録できます

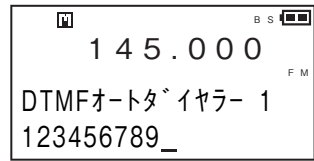
●オートダイヤラーのメモリー設定

1 ダイヤル（上）を回して「DTMFオートダイヤラー」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 サブダイヤル（下）を回してダイヤラーメモリーの番号「1～9」を選択します。

3 キーボードを押してDTMFコードを入力します。

入力すると次のように表示されます。
「　　1」→「　12」→「　123」→「　1234」→「12345」「123456」と表示され、最大16桁まで入力できます。

M BS
145.000
FM
DTMFｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾗｰ 1
123456789_

コード入力中にFUNCキーを押し、F点灯中にPRIO 0キーを押すとコードの代わりにポーズを設定することができます。
ポーズは「-」で表示されます。
ポーズを設定すると、ポーズに相当するところで約1秒の無信号状態になります。
入力したDTMFコードをすべて消去するには、FUNCキーを押し、F点灯中に*CLRキーを押します。

4 入力したコードは自動的に記録されます。[PTT] キーを押すと運用モードに戻ります。

●オートダイヤラーの送出

スピーカーからDTMFコードを鳴らしますが電波は送信されません。

1 セットモードで前述の操作をおこない、鳴らしたいコードを選択します。

2 FUNCキーを押したあと、#RPT ENTキーを押します。

3 現在表示されているDTMFコードがスピーカーから出力されます。

メモリーされていない場合はDTMFコードは出力されません。

●オートダイヤラーの送信

1 [PTT] キーを押して送信状態にします。

2 FUNCキーを押してディスプレイに「D」を点灯させます。

3 WILD 1～CALL 9キーのいずれかのキーを押すと、そのキーの番号に登録したDTMFコードが自動的に送信されます。

DTMFコードが登録されていないキーを押しても、DTMFコードは送信されません。

●リダイヤル機能

1 ［PTT］キーを押して送信状態にします。

2 FUNCキーを押します。

ディスプレイ上部に「D」と表示されます。

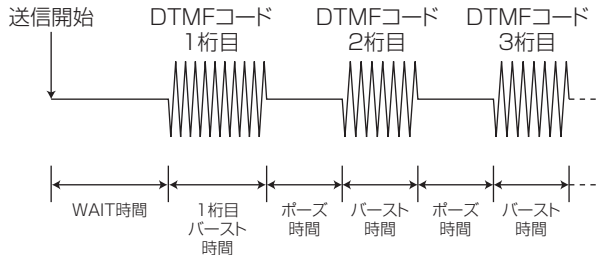
3 PRIO 0キーを押します。

最後に送出したDTMFコード列（マニュアル送信したDTMFコード）を自動送信します。この場合は、スピーカーからモニター音も鳴ります。

注意

- 出荷時、またはリセット後に一度もダイヤル出力をしていない場合はリダイヤルは動作しません。

参考

- 「10-6-2」から「10-6-4」の項目で設定するDTMF関連のタイミングを示します。

10-6-2 DTMF WAIT時間

オートダイヤラーでDTMFコードを送出するときに、設定されたWAIT時間後にコード送出が開始されます。初期設定値は100ミリ秒です。

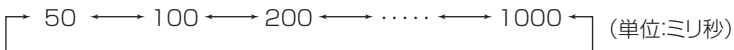
1 ダイヤル（上）を回して「DTMF WAIT時間」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

```
M                BS
   145.000
                  FM
DTMF WAIT 時間
100ミリ秒
```

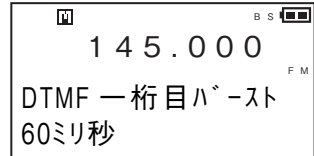
2 ダイヤル（下）を回して、100 ～ 1000ミリ秒の範囲で、DTMF WAIT時間を選択します。

ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

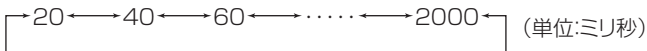
→ 50 ⟷ 100 ⟷ 200 ⟷ ····· ⟷ 1000 ←（単位:ミリ秒）

10-6-3 DTMF 1桁目バースト時間

オートダイヤラーでDTMFコードを送出するときに、設定された1桁目バースト時間でコード送出が開始されます。初期設定値は120ミリ秒です。

1 ダイヤル(上)を回して「DTMF 一桁目バースト」を選択します。

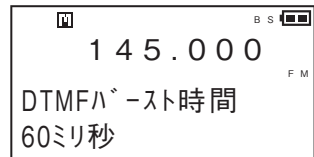
ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル(下)を回してDTMF1桁目バースト時間を選択します。

ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

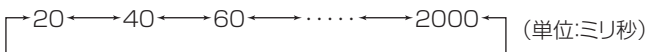
(単位:ミリ秒)

10-6-4 DTMFバースト/ポーズ時間

オートダイヤラーでDTMFコードを送出するときに、バースト時間とポーズ時間をそれぞれ個別に設定して送出することができます。
マニュアルで送出する場合もオートダイヤラーのDTMF WAIT時間、1桁目バースト時間、バースト時間、ポーズ時間が反映されます。
初期設定値はバースト時間120ミリ秒、ポーズ時間60ミリ秒です。

1 ダイヤル(上)を回して「DTMFバースト時間」または「DTMFポーズ時間」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル(下)を回して、20~2000ミリ秒の範囲で、20ミリ秒ごとにDTMFバースト時間またはDTMFポーズ時間を個別で設定します。

(単位:ミリ秒)

10

10-7 受信設定

この項目では快適に受信をするための設定をおこないます。

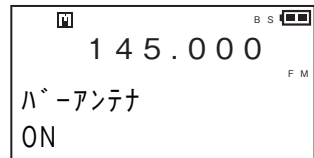
1 セットモードのメニューから≪受信設定≫を選択します。

2 ダイヤルを押すと、受信設定サブメニューに入ります。

10-7-1 バーアンテナ設定

AMラジオ帯を受信するときに内蔵しているバーアンテナと外部アンテナを切り替えます。

1 ダイヤル（上）を回して「バーアンテナ」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル（下）を回して「ON」←→「OFF」を選択します。

AMラジオ帯の受信アンテナの初期設定は内蔵バーアンテナを使用しています。外部アンテナを使用する際はアンテナをアンテナコネクター（SMA）に接続してください。

注 意

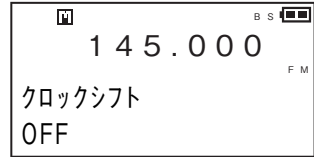
- 内蔵バーアンテナは、短波放送に対応していません。外部アンテナを接続してお使いください。

10-7-2 クロックシフト設定

特定の周波数において常にかすかなノイズが聞こえる場合は、クロックノイズの可能性があります。クロックノイズは本機の回路設計上さけられないもので除去することはできませんが、本機能ではノイズを他の周波数に移すことで、その周波数での受信が快適になる場合があります。

1 ダイヤル(上)を回して「クロックシフト」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

```
M                BS
    145.000
                 FM
クロックシフト
OFF
```

2 ダイヤル(下)を回して「OFF」←→「ON」を選択します。

参考

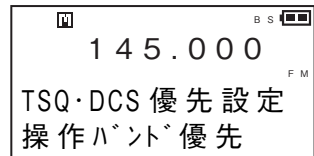
- 本機能はノイズブランカーとは異なる機能です。また、すべてのノイズがクロックノイズによるものではありませんので、効果がない場合もあります。

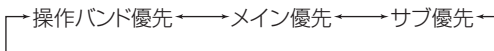
10-7-3 TSQ・DCS優先設定

本機はデュアルバンド受信のとき、トーンスケルチ(TSQ)、DCS設定は1つのバンドのみ有効になります。ここでは、どの条件で選択受信をおこなうかを設定します。

1 ダイヤル(上)を回して「TSQ・DCS優先設定」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

```
M                BS
    145.000
                 FM
TSQ･DCS優先設定
操作ﾊﾞﾝﾄﾞ優先
```

2 ダイヤル(下)を回して優先順位を選択します。

ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

→操作バンド優先←→メイン優先←→サブ優先←

操作バンド優先	操作をおこなっているバンドのトーン・DCS を優先して受信します。(周波数が大きく表示されている側のバンドを優先します。)
メイン優先	メインバンドのトーン･DCS を優先して受信します。(画面上側に表示されているバンドを優先します。)
サブ優先	サブバンドのトーン･DCS を優先して受信します。(画面下側に表示されているバンドを優先します。)

10-7-4 DCSタイプ設定

DCS設定時、受信状況や送信機側の変調度によって、スケルチが閉じてしまうことがあります。その場合、DCSタイプ設定をノーマルからキープに変更することにより、DCSコードでスケルチを開き、ノイズスケルチでスケルチを閉じることができます。

1 ダイヤル（上）を回して「DCSタイプ設定」を選択します。

2 ダイヤル（下）を回して「ノーマル」←→「キープ」を選択します。

注意

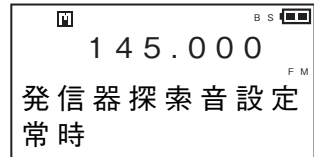
- 設定をキープすることで誤って異なるDCSコードを認識してスケルチが開いた場合、QSOが無くなるまでスケルチが閉じなくなります。

10-7-5 発信器探索音設定

デュアルバンドで発信器探索中にもう片方のバンドで受信したとき、発信器探索音を一時休止するかどうかを設定します。

1 ダイヤル（上）を回して「発信器探索音設定」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

```
M                BS
    145.000
                 FM
発信器探索音設定
常時
```

2 ダイヤル（下）を回して「常時」←→「一時休止」を選択します。

「一時休止」にすると、発信器探索をおこなっていない側のバンドから受信したときは、発信器探索音を中断します。

10-7-6 運用周波数限定機能

本機のVFOモードをメイン、サブバンドともアマチュア帯に限定して運用するモードです。メモリー、プリセットモードは限定されません。

1 ダイヤル（上）を回して「運用周波数限定」を選択します。

2 ダイヤル（下）を回して運用周波数の範囲を選択します。

全周波数	本機で運用できるすべての周波数を表示します。
アマチュア限定	アマチュア帯のみを表示します。

「アマチュア限定」にすると、メインバンドにレピーター周波数専用のプリセットモードが追加されます。

10-7-7 プリセットモード設定

運用モードのプリセットモード設定を表示させない設定です。

1 ダイヤル（上）を回して「プリセットモード設定」を選択します。

2 ダイヤル（下）を回して「表示する」←→「表示しない」を選択します。

- 表示しないを選択すると、MW C V/P/M キーを押してもメイン、サブバンドともにプリセットモードを表示しません。

10

10-8 メモリー設定

この項目ではメモリー機能の設定をおこないます。

1 セットモードのメニューから≪メモリー設定≫を選択します。

2 ダイヤルを押すと、メモリー設定サブメニューに入ります。

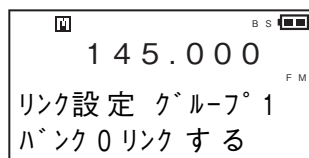
10-8-1 バンクリンク設定機能

メモリースキャンのときに、スキャンをおこなうバンクを自由に組み合わせてグループ化できます。グループは10組と盗聴器発見機能専用の1組が設定でき、それぞれPRIO 0～CALL 9キーとB SUBキーに対応しています。

●バンクリンク設定方法

1 ダイヤル（上）を回して「リンク設定」を選択します。

2 PRIO 0～CALL 9またはB SUBキーを押して設定したいグループ番号を選択します。

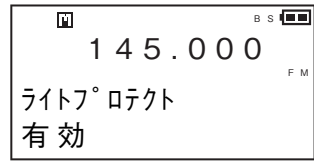
```
M                B S
    145.000
                  F M
ﾘﾝｸ設定 ｸﾞﾙｰﾌﾟ1
ﾊﾞﾝｸ0 ﾘﾝｸ する
```

3 ダイヤル（下）を回してバンク番号を選択し、#RPT ENTキーを押してリンクを「する」にするとグループが登録されます。
再度#RPT ENTキーを押すとリンクは「しない」となり、登録が解除されます。

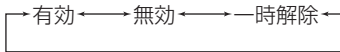
- 設定したグループの内容を確認するときは、確認したいグループを選択してダイヤル（下）を回します。各バンクのリンクの状態が表示されます。

10-8-2 ライトプロテクト(メモリー保護)機能

メモリーモードに登録されているチャンネルを編集(上書き、消去)できるようにします。

1 ダイヤル(上)を回して「ライトプロテクト」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル(下)を回してライトプロテクト設定を選択します。

ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

有効	ライトプロテクトを有効にします。登録されたメモリーは編集できません。
無効	ライトプロテクトを無効にします。登録されたメモリーが編集できるようになります。
一時解除	登録されたメモリーが編集できます。一度電源を入れなおすと、自動で有効になります。

メモリーチャンネルの消去は「メモリーチャンネルの消去(☞P40)」をお読みください。

10

10-9 スキャン設定

本機に搭載されている様々なスキャン機能の設定をおこないます。

1 セットモードのメニューから≪スキャン設定≫を選択します。

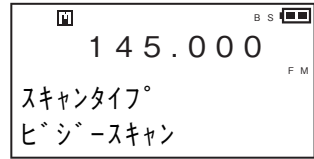
2 ダイヤルを押すと、スキャン設定のサブメニューに入ります。

10-9-1 スキャンタイプ設定

スキャンをおこなう場合の再開条件を選択します。

1 ダイヤル(上)を回して「スキャンタイプ」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

M BS
145.000
FM
ｽｷｬﾝﾀｲﾌﾟ
ﾋﾞｼﾞｰｽｷｬﾝ

2 ダイヤル(下)を回して「ビジースキャン」←→「1秒タイマースキャン」〜「25秒タイマースキャン」←→「1秒時間指定」〜「5分時間指定」を選択します。

次の表を参考にお好みの設定にします。

ビジースキャンモード	スキャン停止後、信号がなくなればスキャンを再開します。
タイマースキャンモード	スキャン停止後、受信中でも設定時間が経過するとスキャンを再開します。タイマーの時間は 1 秒〜 25 秒の間で設定できます。
時間指定スキャンモード	信号の有無に関係なく、指定した時間が経過すると自動的に次のチャンネルに移動して受信します。スケルチが開いている場合でも動作します。停止する時間は 1 秒〜 5 分の間で設定できます。

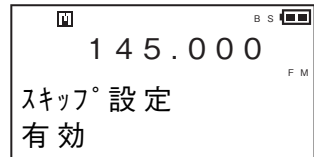
参考

- 時間指定スキャンは、指定した時間が経過すると信号の有無に関わらず自動的に次のチャンネルに移動するスキャンモードです。スケルチが開放されている場合でも動作するので、ACARS(Aircraft Communication Addressing and Reporting System)などのデータ通信を受信するときに、複数チャンネルのデータを特定の時間間隔で受信したい場合や、1つのチャンネルごとに時間をかけてモニターしながらスキャンしたいといった場合に便利な機能です。
- この機能はVFOモード、プリセットモード、メモリーモードで使用できます。

10-9-2 スキップ設定

サーチパスメモリーチャンネルに登録した周波数やスキップ指定したメモリーチャンネルをスキップする（有効）かスキップしない（無効）かを選択できます。
サーチパスメモリーチャンネルに登録した周波数は、VFOスキャン、プログラムスキャン、プリセットスキャン(テレビは除く)のときにスキップされ、スキップ指定したメモリーチャンネルはメモリースキャン時にスキップされます。
メモリースキャン時には、サーチパスメモリーチャンネルに登録した周波数はスキップされません。

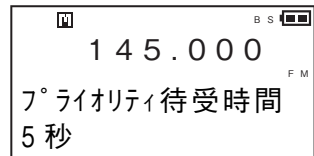
1 ダイヤル（上）を回して「スキップ設定」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

M BS
145.000
FM
ｽｷｯﾌﾟ設定
有効

2 ダイヤル（下）を回して「有効」←→「無効」を選択します。

10-9-3 プライオリティ待ち受け時間設定

プライオリティ機能での待ち受け時間を設定します。

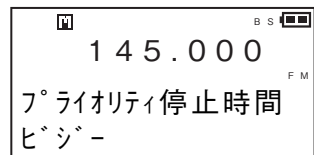
1 ダイヤル（上）を回して「プライオリティ待受時間」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

M BS
145.000
FM
ﾌﾟﾗｲｵﾘﾃｨ待受時間
5秒

2 ダイヤル（下）を回して、5～60秒の範囲で、5秒ごとに待ち受け時間を選択します。

10-9-4 プライオリティ停止時間設定

プライオリティ機能で、プライオリティチャンネルを受信したときに停止する時間を設定します。

1 ダイヤル（上）を回して「プライオリティ停止時間」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

10

2 ダイヤル（下）を回して「ビジー」←→「1秒」～「25秒」を選択します。

ビジーモードと1秒～ 25秒のタイマーモードが選択できます。

10-9-5 スキャン停止時の照明設定

スキャン停止時にディスプレイとキーの照明を点灯させることができます。

1 ダイヤル（上）を回して「スキャン停止時の照明」を選択します。

2 ダイヤル（下）を回してスキャン停止時の照明の「OFF」←→「ON」を選択します。

スキャン停止時の照明を「ON」にしたとき、スケルチが開くと照明が点灯します。

参考

- 「照明設定（☞P70）」を「常灯」に設定した場合でも、この設定が「ON」のときはスキャンを始めると照明が消灯します。スキャン機能を使わない時は常灯に戻ります。

10-10 盗聴器発見機能設定

盗聴器で使われていそうな周波数を自動的にスキャンして、盗聴器を探索する機能です。盗聴器があると判断すると、表示と警告音で知らせます。
本機には「サイレント」と「サウンド」の2モードあります。
また、ユーザーでメモリー登録したバンクを盗聴器発見機能用バンクと組み合わせて盗聴器の探索ができます。

1 セットモードのメニューから≪盗聴器発見機能≫を選択します。

2 ダイヤルを押すと、盗聴器発見機能サブメニューが表示されます。

参考

- サイレントモードとサウンドモードの切り替えはセットモード内の「盗聴器発見機能の設定（☞P95）」をお読みください。
- サイレントモードでは盗聴器発見の探索感度を設定できます。セットモード内の「盗聴器発見機能の感度設定（☞P95）」をお読みください。
- 盗聴器発見機能では、盗聴器発見機能用バンクと組み合わせたバンク内のメモリーチャンネルを探索します。「バンクリンク設定機能（☞P88）」をお読みください。

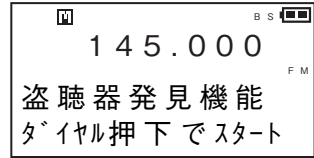
注意

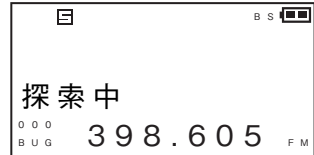
- これらの機能は簡易的なもので、セキュリティの安全を保障するものではありません。盗聴器を発見できなかったことに対する保障は致しかねますので、ご了承ください。
- 弊社では、盗聴器発見や発見された盗聴器の処理などのサービスは一切おこなっておりません。
- 本機能の動作や操作について以外の盗聴に関する一般的なご相談は、弊社カスタマーサービスでは受け付けておりません。

10-10-1 盗聴器発見機能の動作開始

1 ダイヤル(上)を回して「盗聴器発見機能」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

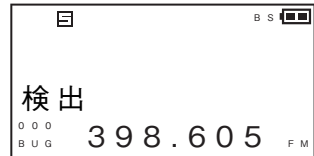
BS
145.000
FM
盗聴器発見機能
ﾀﾞｲﾔﾙ押下でｽﾀｰﾄ

2 ダイヤルを押します。

3 [PTT]キーを押すと盗聴器発見機能が解除されます。

●サイレントモードでの探索

信号を受信するとその受信音をスピーカーから出し、盗聴器であれば起こる「ハウリング」という現象の有無によって精度の高い探索をするモードです。

- このモードで動作させるときは、イヤホンを使用しないでください。
- ノイズなどの影響で誤動作し、スキャンが止まることがあります。盗聴器であれば、ハウリング音に混じって必ず周囲からの音が聞こえます。

1 ダイヤルを押します。

自動的にスキャンを開始します。スキャン中のビープ音はありません。盗聴器があると判断すると警告音をならし、ディスプレイに右のように表示します。

周囲の音がスピーカーから聞こえてくれば盗聴器が仕掛けられている可能性があります。(音が大きくなるので注意してください。)

2 サブダイヤル(下)を回して音量を調整できるようにしておきます。

本機でハウリングの音(キーン音)が発生するように音量を調整し、盗聴器を探します。このときスピーカーの開口部はふさがないでください。

3 本機をゆっくり動かします。

盗聴器に近づくとハウリングの音が発生しやすくなり、盗聴器から離れるとハウリングの音が発生しにくくなります

4 [PTT]キーを押します。

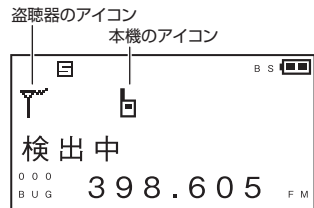
この機能が解除されます。

●サウンドモードでの探索

本機から音を出し、盗聴器にその音を発信させ、その信号を本機が受信するまでの時間差を測り、盗聴器の探索と盗聴器までのおおまかな距離を判定するモードです。盗聴器があると判断すると盗聴器までの距離を音と表示によって教えてくれるのが特徴です。探索中はピーと大きな音をたてます。

- このモードで動作させるときは、イヤホンを使用しないでください。
- 盗聴器発見機能の有効距離は約1 ～ 5mです。
- 盗聴器発見機能は周囲の音や盗聴器の電波の強さ、マイク感度などに大きく影響されます。周囲環境により（音が反響しやすいところなど）誤動作または使用できないことがあります。
- 盗聴器探索中、本機を急に動かすと、ドップラー効果により誤動作します。
- スピーカーの向きと盗聴器の位置関係で正常に動作しないことがあります。
- 2300Hzの変調がある電波を受信している場合は、正常に動作しません。

1 ダイヤルを押します。

自動的にスキャンを開始します。スキャン中は連続したピー音が出ます。
指定した範囲のスキャンをおこなって一定時間が経過しても見つからない場合は「停止」と表示して、探索を終了します。

2 本機をゆっくり動かしながら盗聴器がありそうな場所を探します。

盗聴器があると判断すると「ピッ・ピッ・ピッ」と音が出ます。
本機が盗聴器に近づくと、アイコンの間隔が狭まって音の間隔が短くなり、盗聴器から離れていくと、アイコンの間隔が広がって音の間隔が長くなります。

3 ［PTT］キーを押します。

この機能が解除されます。

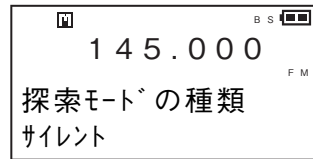
- 盗聴器によく使用されている周波数の他に探索したい周波数を盗聴器発見用バンクと組み合わせて盗聴器の探索をおこなった場合はスキャン時間が長くなることがあります。（☞P88）

10-10-2 盗聴器発見機能の設定

盗聴器発見機能の探索モードを設定します。

1 ダイヤル(上)を回して「探索モードの種類」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

M BS
145.000
FM
探索ﾓｰﾄﾞの種類
ｻｲﾚﾝﾄ

2 ダイヤル(下)を回して「サイレント」←→「サウンド」を選択します。

盗聴器発見機能の詳細は「盗聴器発見機能設定(☞P92)」をご覧ください。

10-10-3 盗聴器発見機能の感度設定

サイレントモード時の盗聴器発見機能の検出感度を設定します。

1 ダイヤル(上)を回して「検出感度」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル(下)を回して「1」←→「5」を選択します。

初期値は3です。

盗聴器発見機能の感度は「1」低い←→「5」高いの順で選択できます。

- 感度を高くすると、誤動作を起こしやすくなります。低くすると誤動作は減りますが、盗聴器の近くでないと反応が鈍くなります。

10-11 キー操作設定

本機でのキー操作を設定できます。

1 セットモードのメニューから≪キー操作≫を選択します。

2 ダイヤルを押すと、キー操作のサブメニューが表示されます。

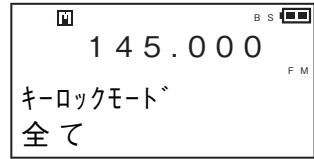
10

10-11-1 キーロックモード設定

キーロックをかけるキーやダイヤルの割り当てを設定します。

1 ダイヤル(上)を回して「キーロックモード」を選択します。

2 ダイヤル(下)を回してキーロックモードの種類を選択します。

M BS 145.000 FM
キーロックモード
全て

ダイヤルを回すごとに次のように切り替わります。

→PTTキーのみ←→キーボードのみ←→ダイヤルのみ←→PTT+キーボード←
→全て←――→キーボード+ダイヤル←――→PTT+ダイヤル←

PTT キーのみ	[PTT]キーを押して操作する送信をロックします。
キーボードのみ	キーボード操作をロックします。
ダイヤルのみ	ダイヤル操作をロックします。※
PTT+ キーボード	[PTT]キー送信とキーボード操作をロックします。
PTT+ ダイヤル	[PTT] キー送信とダイヤル操作をロックします。
キーボード + ダイヤル	キーボード操作とダイヤル操作をロックします。
全て	すべての操作をロックします。

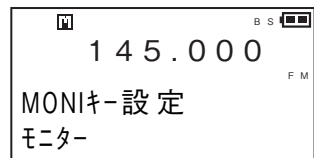
※ダイヤルの「音量」「スケルチ」と［MONI］キーは操作可能。

10-11-2 MONIキー設定

［MONI］キーを押したときの動作をモニター、またはミュートに設定できます。

1 ダイヤル(上)を回して「MONIキー設定」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

M BS 145.000 FM
MONIキー設定
モニター

2 ダイヤル(下)を回して「モニター」←→「ミュート」を選択します。

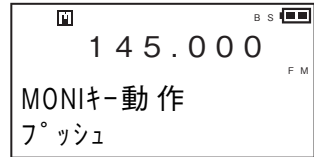
モニター	[MONI] キーを押すと一時的にスケルチを開きます。
ミュート	[MONI] キーを押すと一時的に音を消します。

10-11-3 MONIキー動作の設定

［MONI］キーを押したときの動作を設定できます。

1 ダイヤル（上）を回して「MONIキー動作」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

```
M                 BS
   145.000
                  FM
MONIｷｰ動作
ﾌﾟｯｼｭ
```

2 ダイヤル（下）を回して「プッシュ」←→「ホールド」を選択します。

プッシュ	［MONI］キーを押しているときだけモニター機能、またはミュート機能が動作します。
ホールド	［MONI］キーを押し、もう一度押すまでモニター機能、またはミュート機能が動作します。

●MONIキー操作対象バンドの設定

［MONI］キーを押したときの操作対象となるバンドを設定できます。

1 ダイヤル（上）を回して「MONIキー操作対象」を選択します。

2 ダイヤル（下）を回して［MONI］キーの操作対象となるバンドを選択します。

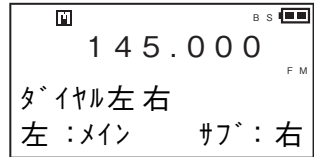
両バンド	［MONI］キーの操作対象が両バンドになります。
メインバンド	［MONI］キーの操作対象がメインバンドになります。
サブバンド	［MONI］キーの操作対象がサブバンドになります。
操作バンド	［MONI］キーの操作対象が操作バンドになります。

10-11-4 ダイヤル左右の機能設定

左右にあるダイヤルの機能を入れ替えます。

1 ダイヤル(上)を回して「ダイヤル左右」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

```
M                     BS
   145.000
                      FM
ﾀﾞｲﾔﾙ左右
左 :ﾒｲﾝ      ｻﾌﾞ: 右
```

2 ダイヤル(下)を回して「左:メイン　サブ:右」←→「左:サブ　メイン:右」を選択します。

10-11-5 ダイヤル上下の機能設定

ダイヤルの上下の機能を入れ替えます。

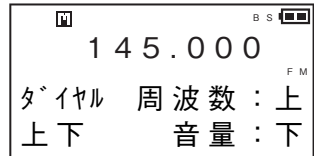
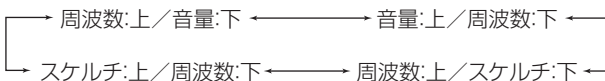
1 ダイヤル(上)を回して「ダイヤル上下」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

```
M                     BS
   145.000
                      FM
ﾀﾞｲﾔﾙ   周波数 : 上
上下      音量 : 下
```

2 ダイヤル(下)を回してダイヤルの上下の機能を選択します。

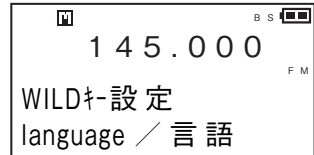
ダイヤルを回すごとに次のように切り替わります。

周波数:上／音量:下 ←→ 音量:上／周波数:下 → 周波数:上／スケルチ:下 ←→ スケルチ:上／周波数:下 → 周波数:上／音量:下

参考

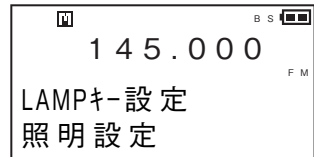
- 音量、スケルチのうち割り当てられなかった機能は、ダイヤルを押すと調整できます。

10-11-6 ショートカット機能の設定

●[WILD 1]キーにセットモード内の任意のメニューを割り当てることができます。よく使うメニューを設定しておくと、すばやく設定を変更できるようになります。

1 ダイヤル（上）を回して「WILDキー設定」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル（下）を回して[WILD 1]キーに割り当てたい機能を選択します。

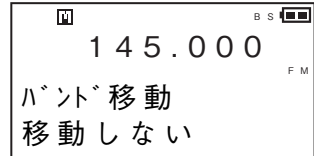
●[LAMP]（MONI）キーにセットモード内の任意のメニューを割り当てることができます。よく使うメニューを設定しておくと、すばやく設定を変更できるようになります。

1 ダイヤル（上）を回して「LAMPキー設定」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル（下）を回して[LAMP]キーに割り当てたい機能を選択します。

10-11-7 バンド移動の可否設定

サブバンドのVFOモードでのスキャンやダイヤル操作中にバンドの上端、下端に周波数がきたとき、そのバンド内の逆の端に戻るか次のバンドに移動するかを設定します。

1 ダイヤル（上）を回して「バンド移動」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

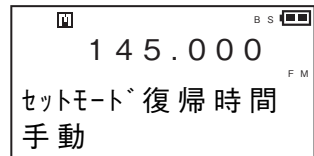
M BS
145.000
FM
ﾊﾞﾝﾄﾞ移動
移動しない

2 ダイヤル（下）を回して「移動しない」←→「移動する」を選択します。

移動しない	バンド内の逆の端に戻ります。
移動する	次のバンドに移動します。

10-11-8 セットモードの復帰時間の設定

何も操作をしないときに、セットモードを自動的に終了する時間を設定する機能です。手動と自動（5秒～ 5分）を選択できます。

1 ダイヤル（上）を回して「セットモード復帰時間」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

M BS
145.000
FM
ｾｯﾄﾓｰﾄﾞ復帰時間
手動

2 ダイヤル（下）を回して「手動」←→「5秒」～「5分」を選択します。

手動（初期値）	FUNC または［PTT］キーを押すまでセットモードで待機します。
5 秒～ 5 分	キー操作を設定時間おこなわないと自動的にセットモードを終了します。変更した設定は保存されます。

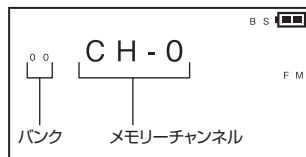
11. チャンネル表示モード

メモリーモードで、周波数のかわりにバンク・チャンネル番号のみを表示し、その他の機能も制限できるモードです。

1 あらかじめメモリーを登録しておきます。

2 メモリーモードにして電源を切ります。

3 [M→V D SCAN]キーと[PTT]キーを押しながら電源を入れます。

ディスプレイに右のように表示されます。

解除する場合は、一度電源を切り、[M→V D SCAN]キーと[PTT]キーを押しながら電源を入れます。

参考

- チャンネル表示モード時は、バンク・チャンネルの変更、音量調整、スケルチ調整、MONI/MUTE機能、メモリースキャン、キーロック以外の操作はできません。
- チャンネルネームが登録されているときはチャンネルネームを表示します。
- リセットをおこなってもチャンネル表示モードは解除できません。

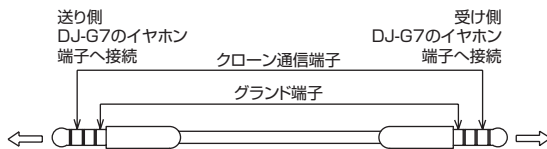
11

12. クローン／ PC接続機能

クローン機能とは、DJ-G7のデータを別のDJ-G7へコピーする機能です。
2台のDJ-G7をケーブルで接続し、送り側に設定している情報（メモリーデータを含む）を受け側へコピーします。
また、本機をパソコン(PC)に接続して、ソフトウエアでメモリーチャンネルや、セットモードの設定などを編集できます。

12-1 接続方法

- クローン機能を使用するときは、別売のクローンケーブル（EDS-11）を送り側のイヤホン／マイク端子と受け側のイヤホン／マイク端子に接続します。
- パソコンに接続するときには、本機のイヤホン／マイク端子に別売りのMIC/SPプラグ変換ケーブル（EDS-14）を接続し、PC接続ケーブル（ERW-7）のプラグを2.5φに変換して接続します。

●クローンケーブル（EDS-11）

参 考

- 「MIC/SP（マイク／スピーカー）プラグ変換ケーブル(EDS-14)（☞P109）」では、EDS-14を例に防水プラグ付きケーブルの接続方法を説明していますのでご参照ください。

12-2 データを受け取る側の操作

DJ-G7同士のクローンデータやパソコンによるメモリー編集のデータを受け取る際は、次の操作を行ってください。

1 本機の電源を切った状態で、クローンケーブル（EDS-11）をイヤホン／マイク端子に接続し、本機の電源を入れます。

2 [MONI] キーを押しながら [PTT] キーを3回押します。クローンモードになりデータの受け取りを待ちます。

別のDJ-G7からデータの受け取りが終了すると、本機の電源が自動的に切れて再度電源が入ります。

注 意

- データ転送中は本機のキーを押さないでください。
- データ転送中はケーブルを抜かないでください。ケーブルが抜けると送り側でディスプレイに「ERROR」と表示され、データ転送が中断されます。
- クローン機能を使用してデータ転送をすると、受け側のデータ内容はすべて送り側のデータ内容に置き替わってしまいます。受け側にデータがある場合は注意してください。

12-3 データを送る側の操作

この操作はPC接続には不要です。

1 本機の電源を切った状態で、クローンケーブル（EDS-11）をイヤホン／マイク端子に接続し、本機の電源を入れます。

2 [MONI]キーを押しながら[PTT]キーを3回押します。
ディスプレイに右のように表示されます。

```
CLONE
```

3 メインダイヤルを押すとデータを受け側に転送します。

4 転送が完了するとディスプレイに「FINISH!!」と表示されます。
ディスプレイに「ERROR」と表示された場合は、再度手順1からやり直してください。

5 電源を切ります。
電源を切らないとクローンモードは解除されません。

12

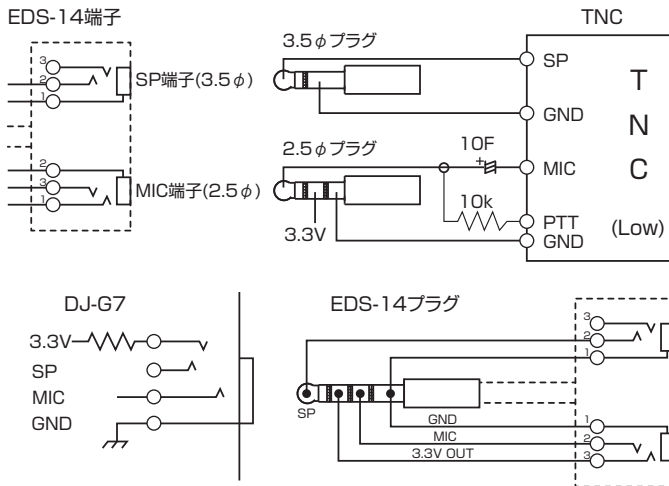
12-4 パケット通信

パケット通信とは、パソコンとTNCを使用して送受信の操作をするデータ通信のひとつです。

12-4-1 パケット通信の接続

本機でパケット通信するときは、下図を参照し次のように接続してください。オプションのEDS-14 MIC/SPプラグ変換ケーブルを本機上部のイヤホン／マイク端子に接続し、パケット通信用TNC(市販品：Terminal Node Controller)をEDS-14のスピーカー端子(3.5φプラグ使用)、およびマイク端子(2.5φプラグ使用)に接続します。

・入力レベルの調節：本機にはマイクおよびスピーカーレベルを調節する機能はありません。TNC側でレベルを調節してください。

・出力レベルの調節：イヤホン／マイク端子からの出力レベルは本体側の音声出力で調節してください。

*内部の3.3Vラインから100Ωの抵抗を通して電圧が供給されます。

注意

- TNCとパソコンなどとの接続方法は、TNCの取扱説明書にしたがってください。
- 本機、TNC、パソコンとの距離が近すぎるとノイズを受けることがあります。
- パケット通信を行うときにはバッテリーセーブ機能をOFFにしてください。
- 1200bps以下でご使用ください。

13. リセット機能

- メモリーモードで消去されたデータは元に戻すことはできませんので十分にご注意ください。

本機にはセットモードやディスプレイ表示のみが初期化されるパートリセットと、メモリーデータも消去するオールリセットの2種類があります。

13-1 パートリセット

メモリーデータを初期化せずに設定のみを工場出荷時の状態に戻します。
操作がわからなくなったときや、正常に動作しなくなったときに使用します。

1 本機の電源を切ります。

2 [FUNC]キーを押しながら電源を入れます。

3 ディスプレイに「リセット完了」と表示されたら、キーを離します。

13-2 オールリセット

メモリーデータの再編集など限られた用途以外には使用しません。
各機能の初期化に加えメモリーデータもすべて消去します。

1 [STEP 7]キー・[SCAN]キー・[FUNC]キーを押しながら電源を入れます。

2 ディスプレイに「オールリセット完了」と表示されたら、キーを離します。

初期設定のVFOモードになります。

13

14. 保守・参考

14-1 故障とお考えになる前に

次のような症状は故障ではありませんのでよくお確かめになってください。
処置をしても異常が続くときは、リセットをすることで症状が回復する場合があります。設定プログラム・CPU関連の問題は、リセットをすることで回復する場合が多いです。

症状	原因	処置
電源を入れても、ディスプレイには何も表示されない。	バッテリーパックが接触不良をおこしている。	バッテリーパックの端子の汚れなどを取り除く。
	電池が消耗している。	充電をおこなう。 乾電池ケースの電池を交換する。
	電源スイッチを離すのが早すぎる。	電源スイッチを少し長めに押す。
	PTT キーが押されている。	PTT キーを離して電源を入れなおす。
スピーカーから音が出ない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定する。
	スケルチレベルが高すぎる。	適切なレベルに設定する。
	トーンスケルチが働いている。	トーンスケルチを解除する。
	DCS が働いている。	DCS を解除する。
	PTT キーが押され、送信状態になっている。	PTT キーを離す。
	ミュート機能が働いている	ミュート機能を解除する。
周波数表示が異常になっている。	CPU が誤作動している。	外部電源およびバッテリーパックを外し、10 秒以上待ってから取り付ける。それでも解決しないときはリセットする。
	チャンネルネームが設定されている。	「メモリーネーム機能 (☞ P44)」を参照してください。
スキャンができない。	スケルチが開いている。	スケルチを雑音の消える値に設定する。
周波数、メモリーチャンネル No. が切り替わらない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
キーによる操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。

症状	原因	処置
レピーターアクセス機能が使用できない。	レピーターを使うための設定が間違っている。	レピーターの設定を確認する。
送信ができない。送信すると、表示が点滅したり消えたりする。	電池が消耗している。	充電をおこなう。 乾電池ケースの電池を交換する。
送信ができない。送信しても応答がない。	PTT キーが確実に押されていない。	PTT キーを押して TX/RX ランプが赤く点灯することを確認する。
	オフバンドになっている。 (シフト設定が間違っている。)	送信周波数の範囲内で送信する。 シフト設定を確認する。
	周波数が違っている。	相手局の周波数と正しく合わせる。
受信中に表示が点滅したり消えたりする。	電池が消耗している。	充電をおこなう。 乾電池ケースの電池を交換する。

- 本体内部の防水シールド、DC電源ジャックやイヤホンマイクのキャップなどの防水パーツは消耗品で、傷んでくると水に対する保護の性能は低下します。弊社の保証するJIS保護等級7種防浸形相当の性能の保証期間は製品保証と同じ1年間です。JIS保護等級7種防浸形は雨や雪、しぶきに対する機構的な保護の規格であって、水没や水中での使用などを保証するものではありません。イヤホンやDCジャックのゴムがしっかり閉まっていなかったために内部に浸水した場合は、保証期間内であっても有償修理になりますので、ご注意ください。専用ソフトケースESC-50をお使いいただくと、一層効果的に汚れや水分から無線機を保護することができます。
- アフターサービスやサポートが必要な場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。最寄りの販売店の検索には、弊社ホームページ（http://www.alinco.co.jp/）の「販売店のご案内」メニューをご利用ください。
- 本製品はウエブサイトで更新用のファームウエア（無線機内部のチップに書かれた動作プログラム）を提供しております。
  詳細はhttp://www.alinco.co.jp/denshi/10_update.htmlをご覧ください。また、この理由からお客様がお使いのファームウエアによっては、本書の説明と異なった動きをすることがあります。
- 本製品についてサービスセンターにお問い合わせになる際は、次の方法でファームウエアのバージョンをあらかじめご確認いただきますようお願い申し上げます。
  1：FUNCキーを2秒ほど押して、キーロックをかけます。
  2：WILD 1キーを10回連続で押すとバージョン番号が表示されます。
  3：［PTT］キーなどのキー操作をすると運用モードに戻ります。

14

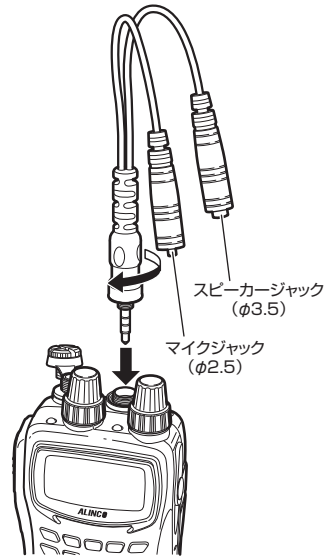
14-2 オプション一覧

- リチウムイオンバッテリーパック（EBP-73：7.4V 1200mAh）
- 乾電池ケース（EDH-35）
- 充電スタンド（EDC-173）
- 充電スタンドセット（EDC-173J：充電用ACアダプター付き）
- 充電用ACアダプター（EDC-112）
- 充電用シガーライターケーブル（EDC-43）
- フィルター付きシガーライターケーブル（EDC-36）
- DCケーブル（EDC-37）
- スピーカーマイク（EMS-59）*
- スピーカープラグ（EMS-62：防水プラグ）
- VOX付きタイピンマイク（EME-15A）*
- VOX付きヘッドセット（EME-12A）*
- VOX付きヘッドセット（EME-13A）*
- イヤホンマイク（EME-21A：ヘビーデューティ仕様）*
- イヤホンマイク（EME-32A：ヘビーデューティ 防水プラグ）
- イヤホンマイク（EME-34A：タイピン型）*
- イヤホンマイク（EME-36A：防水プラグ）
- ストレートコードイヤホン（EME-6）*
- カールコードイヤホン（EME-26）*
- クローンケーブル（EDS-11：防水プラグ）
- MIC/SPプラグ変換ケーブル（EDS-14：防水プラグ）
- PC接続ケーブル（ERW-7）*
- ソフトケース（ESC-50）

注意

- *マークのついたオプション品を使用するには、EDS-14ケーブルを購入してください。
- 外部DCケーブル類を使用するときは、電源を入れる前に本機に接続してください。
- EBP-73以外のオプションアクセサリーはすべて防水加工されていません。防水プラグの付いたマイク類でも、マイクユニット部分は防水ではありません。

14-2-1 MIC/SP(マイク／スピーカー)プラグ変換ケーブル(EDS-14)

1. 本機の電源を切ります。
2. プラグを時計方向(右)に回します。回転が止まったら、プラグを確実に取り付けたことを確認します。
3. MIC/SPケーブルをそれぞれのジャックに接続します。

注 意

- 本機を上下逆さまに持ち、ケーブルを下にぶら下げた状態でプラグを取り付けるとケーブルが絡まりにくいのですが、手を滑らせて本機を落とす危険があります。落下による故障は保証の対象外となりますのでご注意ください。
- プラグを無理に締めつけるとプラグの故障の原因になります。ペンチのような工具を使って締めたり緩めたりすることは絶対におやめください。

14

14-3 アフターサービスについて

■保証書

保証書は、所定事項（ご購入店名、ご購入日）への記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。ご購入時の記載、またはそれを証明するレシート等の書類が無い場合の保証は無効となりますので充分ご注意ください。

■保証期間

お買い上げの日より1年間です。
正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に有効な保証書を添えて、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。保証書の規定にしたがって無償で修理いたします。

■保証期間が経過した場合

お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。
アフターサービスについてご不明な点がありましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

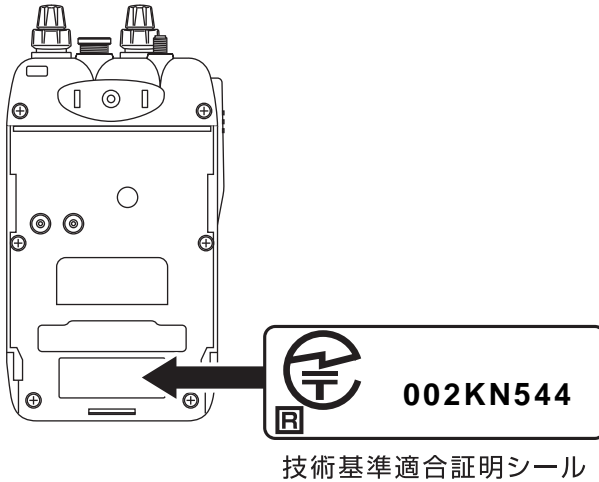
■製造終了製品に対する保守年限に関して

製造終了製品に関しては、下記の一定期間保守部品を常備しております。しかし、不測の事態により在庫が無くなる場合もあり、修理が行えないこともありますのでご了承願います。
※補修用部品の保証期間は、製造終了後5年です。
※弊社ホームページ（http://www.alinco.co.jp/ → 電子事業部 → Q&A → アフターサービス）にカスタマーサービスに関する情報を掲載しておりますのでご参照ください。

参考

- FSK機能については弊社ホームページ（http://www.alinco.co.jp/→電子事業部→ダウンロード）に掲載します。

14-4 申請書の書きかた

本機は技術基準適合証明（技適）を受けた無線機です。本機に貼ってある技術基準適合証明ラベルに技適証明番号が記入されています。本機に付属装置（TNCなど）や付加装置を付けるときは、技術基準適合外となりますので保証認定を受けて申請してください。改造後の申請方法など保証認定に関してはTSS株式会社（http://www.tsscom.co.jp/）にお問い合わせください。

技術基準適合証明シール

14-5 技術基準適合証明で申請する場合

「無線局事項書及び工事設計書」裏面の「16 工事設計書」に技術適合証明番号を記入してください。

記入例

13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力	希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力
	□ 1.9M	A1A	W	□ 1200M	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
	□ 3.5M	□3HA □4HA □	W	□ 2400M	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
	□ 3.8M	□3HD □4HD □	W	□ 5600M	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
	□ 7M	□3HA □4HA □	W	□ 10.1G	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
	□ 10M	□2HC □	W	□ 10.4G	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
	□ 14M	□2HA □	W	□ 24G	□	W
	□ 18M	□3HA □	W	□ 47G	□	W
	□ 21M	□3HA □4HA □	W	□ 75G	□	W
	□ 24M	□3HA □4HA □	W	□ 77G	□	W
	□ 28M	□3VA □4VA □3VF □4VF □	W	□ 135G	□	W
	□ 50M	□3VA □4VA □3VF □4VF □	W	□		W
	□ 144M	□3VA □4VA □3VF □4VF □ ※1	W	□		W
	□ 430M	□3VA □4VA □3VF □4VF □	W	□4630kHz	A1A	W

14 変更する欄の番号							
	□ 3	□ 5	□ 8	□ 11	□ 12	□ 13	□ 16

16 工事設計書	装置の区別	変更の種別	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	変調方式	終段管 名称個数	終段管 電圧	定格出力 (W)
	第　送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更	※2 ※3				V	
	第　送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
	第　送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
	第　送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
	第　送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
	第　送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
	第　送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
	第　送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
	第　送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
	第　送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
	送信空中線の型式	※4		周波数測定装置の有無	□ 有（誤差0.025％以内） □ 無			
	添付図面	□ 送信機系統図		その他の工事設計	□ 法第3章に規定する条件に合致する。			

※1 144Mと4VFの項にチェックを入れ、空中線電力の欄には5Wと記入。
430Mと4VFの項にチェックを入れ、空中線電力の欄には5Wと記入。
1200Mと4SFの項にチェックを入れ、空中線電力の欄には1Wと記入。
※2 技適証明ラベルの技術基準適合証明番号を記入します。
※3 無線局免許手続規則第15条の3第4項を適用する場合（技術基準適合証明を受けた無線機に、電波型式が追加されたり、空中線電力が変わる付加装置などを付けず使用する場合）は右の各欄の記載は不要です。
※4 移動する局の場合は記載は不要です。

14-6 送信系統図

144.000～145.995MHz
430.000～439.995MHz
1260.000～1299.995MHz
ANT
電力増幅
2SK3476
電力増幅
NE5510279
144MHz/430MHz
励振増幅
RD01MUS2
1200MHz
励振増幅
RQA0004
緩衝増幅
uPC2771TB
緩衝増幅
2SC5066FT
CPU
M30625
PLL
MB15F07SL
X'tal
12.8MHz
144.000～145.995MHz
VCO(144MHz)
2SC5066FT
430.000～439.995MHz
VCO(430MHz)
2SC5066FT
1260.000～1299.995MHz
VCO(1200MHz)
2SC5066FT
低周波増幅リミッタ
ローパスフィルタ
NJM12904
MIC

15. 英語表示時のセットモード一覧

16. 索引

英数字

あ行

か行

さ行

た行

は行

ま行

ら、わ行

17. 定格

送受信可能 周波数範囲	送信周波数範囲　144 ～ 146MHz, 430 ～ 440MHz, 1260 ～ 1300MHz 受信周波数範囲　0.531 ～ 1300MHz
周波数ステップ	5/6.25/8.33/10/12.5/15/20/25/30/50/100/125/150/200/500KHz/1MHz
電波型式	F1D, F2D, F3E
通信方式	単信方式、複信方式
電源電圧	動作可能範囲（外部電源端子）DC4.5 ～ DC16V
消費電流 （DC13.8V）	受信定格出力時　モノバンド：約 150mA　デュアルバンド：約 200mA 144MHz 帯送信時（5W）　約 1.7A / 430MHz 帯送信時（5W）　約 2.0A 1200MHz 帯送信時（1W）　約 800mA
使用温度範囲	-10℃～ +60℃
外形寸法	幅 61 ×高さ 106 ×奥行き 38mm（突起物含まず）
本体重量	約 296g（アンテナ、リチウムイオンバッテリーパック含む）
送信部	送信出力：144/430MHz 帯　5W/2W/1W/0.3W (DC13.8V) 1200MHz 帯　1W/0.3W (DC13.8V) 変調方式：リアクタンス変調 最大周波数偏移：± 5.0KHz マイクロホンインピーダンス：約 2K Ω
受信部	受信方式　：AM/FM　ダブルスーパーヘテロダイン WFM　シングルスーパーヘテロダイン 中間周波数：FM（メインバンド）　第 1 中間周波数 51.65MHz 第 2 中間周波数 450KHz AM/FM（サブバンド）　第 1 中間周波数 50.75MHz 第 2 中間周波数 450KHz WFM（サブバンド）　第 1 中間周波数 10.7MHz 受信感度　：メインバンド 144 ～ 146MHz（FM）　-15dBμ（12dB SINAD） 430 ～ 440MHz（FM）　-15dBμ（12dB SINAD） 1260 ～ 1300MHz（FM）　-14dBμ（12dB SINAD） サブバンド 0.531 ～ 1.62MHz（AM）　-1dBμ（10dB S/N）typ 1.62 ～ 76MHz（FM）　-6dBμ（12dB SINAD）typ 76 ～ 108MHz（WFM）　-3dBμ（12dB SINAD）typ 108 ～ 144MHz（FM）　-10dBμ（12dB SINAD）typ 144 ～ 146MHz（FM）　-15dBμ（12dB SINAD） 146 ～ 174MHz（FM）　-10dBμ（12dB SINAD）typ 175 ～ 221.75MHz（WFM）　-3dBμ（12dB SINAD）typ 221.8 ～ 430MHz（FM）　-10dBμ（12dB SINAD）typ 430 ～ 440MHz（FM）　-15dBμ（12dB SINAD） 440 ～ 475.75MHz（FM）　-10dBμ（12dB SINAD）typ 475.75 ～ 770MHz（WFM）　-3dBμ（12dB SINAD）typ 770 ～ 1260MHz（FM）　-10dBμ（12dB SINAD）typ 1260 ～ 1300MHz（FM）　-12dBμ（12dB SINAD） 選択度　：AM/FM　-6dB/12KHz 以上　-60dB/35KHz 以下 WFM　-6dB/130KHz 以上　-60dB/300KHz 以下 低周波出力：最大 400mW 以上（8 Ω負荷時）

＊定格、仕様は予告なく変更されることかあります。

17

ALINCO アルインコ株式会社 電子事業部

東 京 営 業 所 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番21号八重洲セントラルビル4階 ☎ 03-3278-5888
大 阪 営 業 所 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋４丁目４－９淀屋橋ダイビル１３階 ☎ 06-7636-2361
福 岡 営 業 所 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南１丁目３番６号第３博多偕成ビル７階 ☎ 092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは

お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120 0120-464-007

全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。受付時間／10:00～17:00月曜～金曜(祝祭日は除きます)
ホームページ http://www.alinco.co.jp/ 「電子事業」の「よくある質問集Q&A」もご参照ください。

PS0596B